

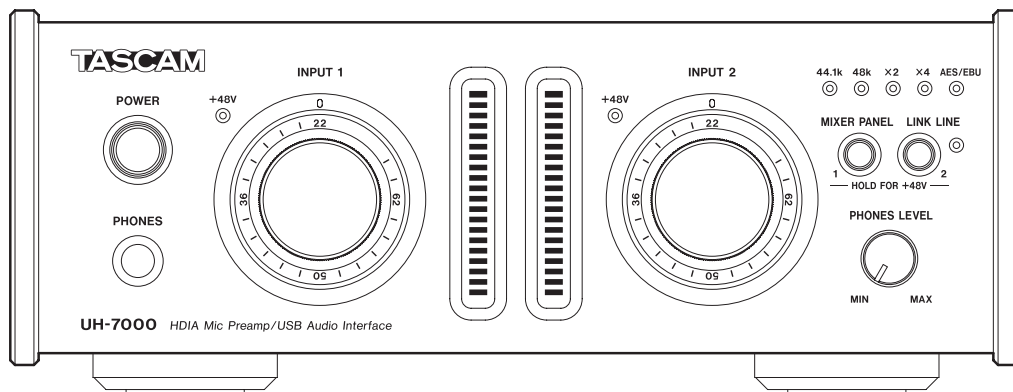
TASCAM

D01205201A

UH-7000

HDIA Mic Preamp / USB Audio Interface







取扱説明書



本機をパソコンに接続する前に、専用ドライバーをダウンロードし、パソコンにインストールしておく必要があります。

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	警告 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 電源プラグをコンセントから抜く	<p>万一、異常が起きたら 煙が出た、変なおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落とした、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（最終ページに記載）に修理をご依頼ください。</p>
 指示	<p>電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的（年1回くらい）に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 禁止	<p>電源コードを傷つけない 電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにし ない 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱 したりしない コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センター （最終ページに記載）に交換をご依頼ください。</p>
	<p>付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。</p>
	<p>交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電 圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・ 感電の原因となります。</p>
	<p>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し（20cm以上） 離して設置する ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上の隙間を空ける 隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>
	<p>この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない 火災・感電の原因となります。</p>
 禁止	<p>この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>
 禁止	<p>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。</p>

この装置は、クラスB 技術情報装置です。この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしがって正しく取り扱いをしてください。 VCCI-B

	警告	以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	分解禁止	<p>この機器のカバーは絶対に外さない カバーを外す、または改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター（最終ページに記載）にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。</p>
	注意	以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
	電源プラグをコンセントから抜く	<p>移動させる場合は、電源のスイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となる場合があります。</p>
	指示	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続する また、接続は指定のコードを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。また、モニター機器などの破損の原因となる場合があります。</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。</p>
	禁止	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災・感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。</p>
	禁止	<p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。</p>
	注意	<p>5年に一度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センター（最終ページに記載）にご相談ください。 内部にほこりがたまったら、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。</p>

目次

安全にお使いいただくために	2	Windows 7とWindows Media Player.....	30
第1章 はじめに.....	5	Windows 8とWindows Media Player.....	31
本機の概要.....	5	Mac OS XとiTunes.....	31
本製品の構成.....	5	OS X Mavericks (10.9) での	
本書の表記.....	5	オーディオMIDI設定について.....	31
商標および著作権に関して.....	6	第8章 トラブルシューティング.....	32
設置上の注意.....	6	第9章 仕様.....	34
電源について.....	6	定格.....	34
結露について.....	6	アナログオーディオ入出力定格.....	34
製品のお手入れ.....	6	アナログオーディオ入力定格.....	34
ユーザー登録について.....	6	アナログオーディオ出力定格.....	34
アフターサービス.....	6	デジタルオーディオ入出力定格.....	34
第2章 各部の名称と働き.....	7	デジタルオーディオ入力定格.....	34
フロントパネル.....	7	デジタルオーディオ出力定格.....	34
リアパネル.....	8	コントロール入出力定格.....	34
第3章 インストール.....	9	オーディオ性能.....	34
必要なシステム.....	9	動作条件.....	35
Windows.....	9	Windows.....	35
Mac OS X.....	9	Mac OS X.....	35
ドライバーをインストールする.....	9	対応オーディオドライバー.....	35
Windows用ドライバーのインストール.....	9	一般.....	35
Mac OS X用ドライバーのインストール.....	10	寸法図.....	36
Gatekeeperについて.....	11	オーディオフローダイアグラム.....	37
ドライバーのアンインストール.....	12		
第4章 接続.....	13		
USBの接続.....	14		
オーディオの接続.....	14		
マイク.....	14		
音源モジュール / MD / CDなど (デジタル接続).....	14		
電子楽器 / オーディオ機器など (アナログ接続).....	15		
アナログレコードプレーヤー.....	15		
モニタースピーカー.....	15		
ヘッドホン.....	15		
第5章 ミキサーパネルの設定.....	16		
ミキサーパネルを開く.....	16		
ミキサーパネルについて.....	16		
《INTERFACE》タブ画面.....	16		
ステータス (状態) 表示部.....	16		
設定項目表示部.....	16		
《MIXER》タブ画面.....	18		
《EFFECTS》タブ画面.....	22		
内蔵エフェクターの使用制限について.....	22		
ダイナミクスエフェクト.....	23		
センドエフェクト.....	25		
ミキサーパネルのプルダウンメニュー.....	26		
エフェクト設定の初期化.....	26		
ミキサー設定の初期化.....	27		
A/Dコンバーターとして使う.....	27		
A/DコンバーターおよびD/Aコンバーターとして使う.....	28		
ミキサーパネルの設定の保存.....	28		
第6章 スタンドアロンモード.....	29		
概要.....	29		
スタンドアロンモード動作時の各設定.....	29		
第7章 アプリケーションガイド.....	30		
Windows XPとWindows Media Player.....	30		

このたびは、TASCAM HDIA Mic Preamp / USB Audio Interface UH-7000をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してください。

また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) からダウンロードすることができます。

本機を使ったシステム内の他の機器（ハードディスクや光ディスクなど）の記憶内容を消失した場合の修復に関しては、補償を含めて当社は責任を負いかねます。

本機の概要

- プロ機器で実績のある高品質部品を使用し、TASCAM独自のHDIA (High Definition Instrumentation Architecture) マイクプリアンプ (EIN -128dBu) 搭載により、当社製品の中で高音質のマイクプリ回路およびAD/DAコンバーターを搭載
- オーディオ用内部クロックに精度1ppmのTCXO (温度補償型水晶発振器) を搭載
- 最大192k Hz / 24ビットまで対応
- USB2.0ポート、最大4チャンネル (アナログ x2 / デジタルx2) 入出力可能なオーディオインターフェース機能を搭載 (Type-Bコネクタ)
- +48Vファントム電源に対応した2系統のXLRバランスマイク入力、および2系統のTRSバランスライン入力を装備
- アナログ出力にはXLRタイプのライン出力、およびヘッドホン出力を装備
- デジタル入力/出力 (XLRタイプ) は、AES/EBUとS/PDIFフォーマットに対応
- マイク/ライン入力 (INPUT1 / INPUT2) にそれぞれ独立した大型TRIMノブを装備、繊細なレベル調整が可能
- マイク/ライン入力 (INPUT1 / INPUT2) は、視認性の良い大型LEDレベルメーター (L / R各20ドット) を搭載
- ライン出力レベルを調節することができるリンクライン機能を搭載
- 3Pインレット接続によるAC電源内蔵
- 本体ケース、トリムノブには肉厚アルミ素材を使用
- デスクトップまたはラックマウント使用など多様な環境に対応できるハーフラックサイズを採用
- パソコン画面上に設定変更画面を素早く呼び出す**MIXER PANEL** ボタンをフロントパネルに装備
- オーディオ入力とパソコンからの入力をミキシングして出力可能な専用オンボードデジタルミキサーを搭載
- 入力に使用可能なダイナミクスエフェクトやセンドバスを使用したセンドエフェクトのDSP処理による専用エフェクターを搭載 (パソコン上から操作が可能)
- マルチトラック録音に対応したマルチトラックモードを搭載 (DAWなどの使用時)
- ダイレクトモニター機能により遅延が少ない入力モニターが可能
- 専用ドライバーおよびアプリケーションは、Windows PCおよびMacに対応
- パソコン接続なしで本体を単独で使用可能なスタンドアロンモードを装備

- スタンドアロンモードの動作設定は、使用環境などに合わせて変更が可能

パソコン操作に関して

本書の説明に出てくるパソコンの基本操作について不明な点がある場合は、お使いのパソコンの取扱説明書をご参照ください。

本機を使用するには、パソコンに専用ドライバーをインストールする必要があります。ドライバーのインストールについては、9ページ「ドライバーをインストールする」をご覧ください。

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管してください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- 本体 x1
- 電源コード x1
- USBケーブル x1
- 保証書 x1
- クイックスタートガイド x1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機のボタン/端子などを「**PHONES LEVEL**つまみ」のように太字で表記します。
- パソコンのディスプレイ上に表示される文字を《**OK**》のように《 》で括弧で表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

第1章 はじめに

商標および著作権に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- Windows 8、Windows 7、Windows Vista、Windows XP および Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apple、Macintosh、Mac OS、Mac OS X、および iTunes は、Apple Inc. の商標です。
- SONAR は、米国Cakewalk, Inc. の米国における登録商標です。
- ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏5度～35度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。
 - 振動の多い場所
 - 窓際などの直射日光が当たる場所
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
 - 極端に温度が低い場所
 - 湿気が多い場所や風通しが悪い場所
 - ほこりの多い場所
- 本機は、水平に設置してください。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。

電源について

- 付属の電源コードをAC IN端子に奥までしっかりと差し込んでください。
- AC100V (50-60Hz) 以外の電源には、接続しないでください。
- 電源コードの抜き差しは、プラグを持って行ってください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置してから電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

ユーザー登録について

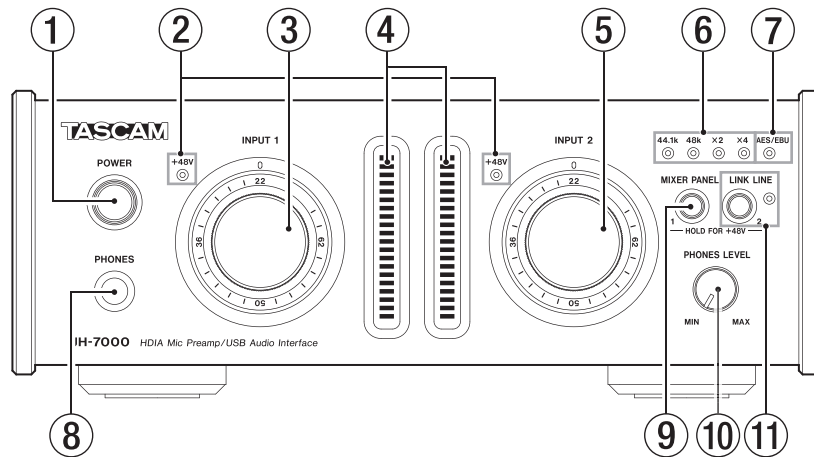
TASCAMのウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願い致します。

<http://tascam.jp/support/registration/>

アフターサービス

- この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししていますので、大切に保管してください。万が一販売店の捺印やご購入日の記載がない場合は、無償修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店・ご購入日が確認できる物を一緒に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センター（最終ページに記載）が修理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（最終ページに記載）にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（最終ページに記載）までご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。
 - 型名、型番 (UH-7000)
 - 製造番号 (Serial No.)
 - 故障の症状 (できるだけ詳しく)
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、最終ページをご参照ください。
- 当社は、この製品の補修用性能部分（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。
- 本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

フロントパネル



① POWERスイッチ／インジケータ

電源をオン／オフします。
電源がオンのときにインジケータが点灯します。

② +48Vインジケータ (INPUT 1 / 2)

ANALOG (BALANCED) MIC IN 1 / 2端子に+48Vのファントム電源が供給されているときに、このインジケータが点灯します。

注意

このインジケータが点灯しているときは、マイクの抜き挿しをしないでください。

③ INPUT 1つまみ

ANALOG (BALANCED) MIC IN 1端子またはANALOG (BALANCED) LINE IN 1端子からのアナログ入力レベルを調節します。

④ レベルメータ (INPUT 1 / 2)

アナログ入力信号のレベルを表示します。
レベルメータの最上部は、オーバードインジケータです。

⑤ INPUT 2つまみ

ANALOG (BALANCED) MIC IN 2端子またはANALOG (BALANCED) LINE IN 2端子からのアナログ入力レベルを調節します。

⑥ 44.1k、48k、x2、x4インジケータ

現在動作中のサンプリング周波数に応じたインジケータが点灯します。

⑦ AES/EBUインジケータ

DIGITAL (AES/EBU) IN端子に入力されているデジタル信号を、マスタークロックとして動作しているときに点灯します。

⑧ PHONES端子

ステレオヘッドホンを接続するためのステレオ標準ジャック (φ6.3mm) です。ステレオミニプラグ (φ3.5mm) のヘッドホンに接続する場合は、変換アダプターをご使用ください。
PHONES端子からは、ANALOG (BALANCED) OUTPUT L / R端子と同じ信号が出力されます。

注意

ヘッドホンに接続する前には、PHONESつまみで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

⑨ MIXER PANELボタン

このボタンを押すと、USB接続したパソコン画面上に各種設定を行うミキサーパネルを直接呼び出して表示します。
ミキサーパネルを表示中にこのボタンを押すと、ミキサーパネルを閉じます。
《MIXER》タブ画面の《Analog 1》チャンネルの入力に《MIC》が選択されているとき、INPUT 1の+48Vインジケータが点灯するまでこのボタンを押し続けると、ANALOG (BALANCED) MIC IN 1端子にファントム電源を供給します。
(→ 14ページ「マイク」)

⑩ PHONES LEVELつまみ

PHONES端子の出力レベルを調節します。
LINK LINEボタンがオンのとき、PHONES端子とANALOG (BALANCED) OUTPUT L / R端子の出力レベルを調節します。

⑪ LINK LINEボタン／インジケータ

このボタンを押すと、リンクライン機能がオンになり、ANALOG (BALANCED) OUTPUT L / R端子への出力レベルをPHONES LEVELつまみを使って調節することができます。
リンクライン機能がオンのとき、このインジケータが点灯します。
《MIXER》タブ画面の《Analog 2》チャンネルの入力に《MIC》が選択されているとき、INPUT 2の+48Vインジケータが点灯するまでこのボタンを押し続けると、ANALOG (BALANCED) MIC IN 2端子にファントム電源を供給します。
(→ 14ページ「マイク」)

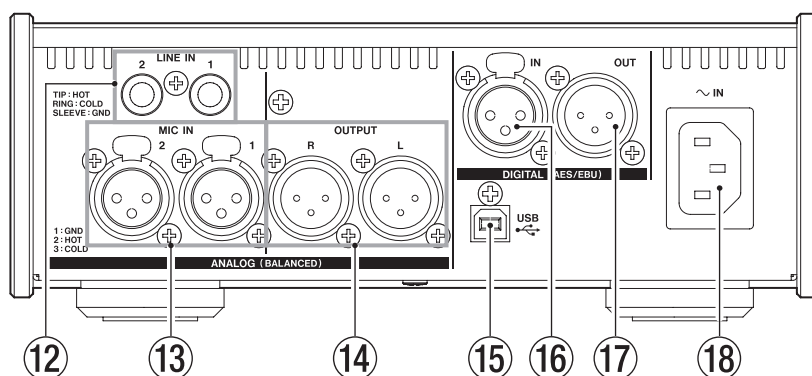
注意

リンクライン機能をオフにすると、ANALOG (BALANCED) OUTPUT L / R端子からの出力が通常のライン出力レベルに戻るため急に大きくなります。
リンクライン機能をオフにする際は、再生音量やモニター機器の設定に十分ご注意ください。

メモ

- リンクライン機能のオン／オフ設定は、電源オフ後 (再起動時) も設定が保持されます。
- 工場出荷時のリンクライン機能がオンに設定されているため、ANALOG (BALANCED) OUTPUT L / R端子からの出力レベルをPHONES LEVELつまみで調節するようになっています。リンクライン機能が不要な場合は、リンクライン機能をオフにご使用ください。

リアパネル



⑫ ANALOG (BALANCED) LINE IN 1 / 2端子

TRS標準ジャックタイプのアナログライン入力端子です。(Tip: HOT、Ring: COLD、Sleeve: GND)

⑬ ANALOG (BALANCED) MIC IN 1 / 2端子

XLRバランスタイプのアナログマイク入力端子です。(1: GND、2: HOT、3: COLD)

⑭ ANALOG (BALANCED) OUTPUT L / R端子

XLRバランスタイプのアナログ出力端子です。
(1: GND、2: HOT、3: COLD)

⑮ USB端子

付属のUSBケーブルを使ってパソコンと接続します (USB2.0に対応)。

注意

- USB1.1には、対応していません。
- USB3.0に接続時は、USB2.0と同等なHigh Speedモード (最大480Mbps) で動作します。
- パソコンのサスペンドモード (スリープモード) には対応していませんので、サスペンドモードの解除後は正常に動作しない場合があります。その場合、USBケーブルを接続し直してください。

⑯ DIGITAL (AES/EBU) IN端子

IEC60958プロユース (AES/EBU)、またはIEC60958コンシューマユース (S/PDIF) に準拠したデジタルオーディオ入力端子です。

⑰ DIGITAL (AES/EBU) OUT端子

IEC60958プロユース (AES/EBU) またはIEC60958コンシューマユース (S/PDIF) に準拠したデジタルオーディオ出力端子です。

⑱ AC IN端子

付属の電源コードを接続します。

必要なシステム

最新の対応OS状況については、TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) にて、ご確認ください。

Windows

対応OS :

- Windows 8 (8.1を含む) 32ビット
- Windows 8 (8.1を含む) 64ビット
- Windows 7 32ビット SP1以上
- Windows 7 64ビット SP1以上
- Windows XP 32ビット SP3以上
(Windows VistaおよびWindows XP 64ビットはサポート外)

対応パソコン :

USB 2.0ポートを装備したWindows対応パソコン

CPU / クロック :

デュアルコアプロセッサ 2GHz以上 (x86)

メモリー :

2GB以上

注意

本機の動作確認は、上記のシステム条件を満たす標準的なパソコンを使って行われていますが、上記条件を満たすパソコン全ての場合の動作を保証するものではありません。同一条件下であっても、パソコン固有の設計仕様や使用環境の違いにより処理能力が異なります。

Mac OS X

対応OS :

- OS X Mavericks (10.9.1以降)
- OS X Mountain Lion (10.8.4以降)
- OS X Lion (10.7.5以降)
- Mac OS X Snow Leopard (10.6.8以降)

対応パソコン :

USB2.0を装備したApple Macintoshシリーズ

CPU / クロック :

デュアルコアプロセッサ 2GHz以上

メモリー :

2GB以上

ドライバーをインストールする

本機を使用するには、パソコンにドライバーをインストールする必要があります。

ドライバーは、随時更新されています。最新のドライバーは、TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) から、ご使用のOSに対応したドライバーをダウンロードしてください。

注意

- デジタルオーディオの処理はパソコンにかなりの負担をかけますので、他のアプリケーション（特にグラフィックやインターネットツール）を動作させることで処理が追いつかなくなる可能性があります。オーディオアプリケーションを使用しているときには、他のアプリケーションを立ち上げないようにしてください。
- インストール終了後またはアンインストール終了後にパソコンの再起動が必要になることがあります。必要に応じてデータのセーブなどを行った上で他のアプリケーションを終了させてください。

Windows用ドライバーのインストール

メモ

- パソコンにUSBケーブルで接続する前にドライバーをインストールしてください。
すでにUSBケーブルを接続して《新しいハードウェアの検出ウィザード》が起動してしまっている場合には、ウィザードをキャンセルして終了した上で、USBケーブルを抜いてください。
- ドライバーのインストール中に、《Windowsロゴテストに合格していません...》という警告メッセージが表示されることがあります。この警告メッセージが表示されたときは、《続行》をクリックしてインストールを続けてください。

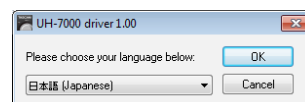
ドライバーのインストール手順

- TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) から、ご使用のOSに適した最新のドライバーをダウンロードし、ご使用のパソコンに保存してください。
- 保存したドライバー (zipファイル) をデスクトップなどに解凍してください。
- 解凍して生成されるフォルダー内にある《setup.cmd》をダブルクリックして、インストールを開始します。

注意

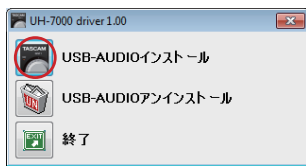
zipファイルを解凍せずに、ダブルクリックして開かれたフォルダーで《setup.cmd》をダブルクリックした場合にはインストーラーは起動できません。zipファイルを右クリックして表示されるメニューから《すべて展開...》を選択するなどして解凍してから再度実行してください。

- しばらくすると言語選択の画面が表示されますので、上下カーソルキーを使用して希望の言語を選択し《OK》ボタンをクリックします（以降は日本語を選択した場合の画面およびボタン名による説明になります）。



第3章 インストール

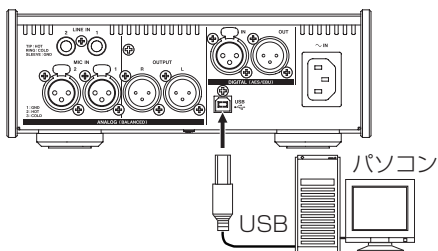
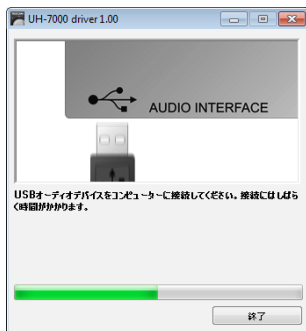
5. 次の画面が表示されたら、《USB-AUDIOインストール》ボタンをクリックします。



6. 使用ライセンス許諾契約書の内容を確認し、《使用許諾契約の条項に同意します》を選択します。次に《インストール》ボタンをクリックすると、インストールが開始されます。



7. 次の画面が表示されたら、付属のUSBケーブルを使って本機とパソコンを接続し、本機のPOWERスイッチを押して電源を入れます。



8. 次の画面が表示されたら、インストール作業は完了です。《再起動》ボタンをクリックします。インストーラーが終了し、パソコンを再起動します。



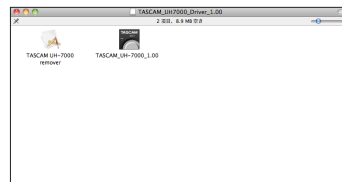
Mac OS X用ドライバーのインストール

メモ

- パソコンにUSBケーブルで接続する前にドライバーをインストールしてください。ドライバーをインストールする前にUSBケーブルを接続した場合には、ドライバーのインストールをキャンセルした上で、USBケーブルを抜いてください。
- ドライバーのインストール中に、「TASCAM UH-7000 X.XX」は、Mac App Storeからダウンロードされたものではないため開けません。などの警告メッセージが表示されることがあります。これらの警告メッセージが表示されたときは、11ページ「Gatekeeperについて」の対処方法を行った上で、インストールを続けてください。

ドライバーのインストール手順

- TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp>) から、ご使用のOSに適した最新のドライバーをダウンロードし、ご使用のパソコンに保存してください。
- 保存したドライバーのディスクイメージファイル《TASCAM_UH-7000_driver_X.XX.dmg》をダブルクリックし、開いたフォルダー内の《TASCAM UH-7000 X.XX》をダブルクリックします。



メモ

ご使用の環境により、ダウンロードしたzipファイルが解凍されていない場合があります。その場合は、zipファイルを解凍してからディスクイメージファイルをダブルクリックしてください。

- インストーラーが起動しますので、その後は画面の指示にしたがってインストールを進めます。



- 次の画面が表示されたら、インストール作業は完了です。《再起動》ボタンをクリックします。インストーラーが終了し、パソコンを再起動させます。



Gatekeeperについて

Gatekeeperの設定により、インストール中に警告メッセージが表示されることがあります。

表示された警告メッセージにより、対処方法が異なります。

詳しくは、以下の対処方法をご参照ください。

● Gatekeeperの設定を《Mac App Storeからのアプリケーションのみを許可》にしている場合

《“TASCAM UH-7000 X.XX” は、Mac App Storeからダウンロードされたものでないため開けません。》というセキュリティの警告画面が表示されることがあります。



その場合には《OK》ボタンをクリックして警告画面を閉じた後、ファイル上でcontrolキーを押しながらクリックする、またはファイル上で右クリックし、メニューから《開く》をクリックしてください。

《“TASCAM UH-7000 X.XX” は、Mac App Storeからダウンロードされたものではありません。開いてもよろしいですか?》という警告画面が表示されますので、《開く》ボタンをクリックしてください。



このとき、次のGatekeeperの設定を《Mac App Storeからのアプリケーションのみを許可》以外にしている場合と同じ警告画面が表示されることがあります。

《“TASCAM UH-7000 X.XX” は、Mac App Storeからダウンロードされたものでないため開けません。》というメッセージが再度表示され、開けないことがあります。




このときは、ファイルのあるフォルダーからデスクトップなど他のフォルダーにファイルをコピーしてから実行するか、Gatekeeperの設定を《Mac App Storeと確認済みの開発元からのアプリケーションを許可》に変更してから再度実行してください。

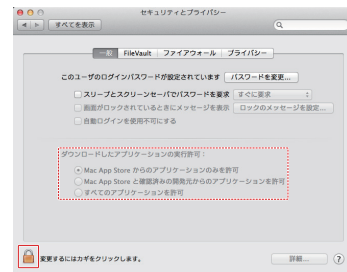
- Gatekeeperの設定を《Mac App Storeからのアプリケーションのみを許可》以外にしている場合
《“TASCAM UH-7000 X.XX” は、アプリケーションで、インターネットからダウンロードされました。開いてもよろしいですか?》というセキュリティの警告画面が表示されることがありますが、その場合には《開く》ボタンをクリックしてください。




● Gatekeeperの設定を変えるには

Gatekeeperの設定は、システム環境設定の《セキュリティとプライバシー》から《一般》タブの《ダウンロードしたアプリケーションの実行許可:》項目で変更できます。

変更するには左下の《 アイコン》をクリックし、パスワードを入力してロックを解除する必要があります。



《 》ボタンもしくはcommand+Qなどでシステム環境設定を終了する、または《すべてを表示》をクリックしてこの画面から移動すると、再度ロックされます。

注意

Gatekeeperの設定を変えることで、セキュリティにリスクが生じる場合があります。

Gatekeeperの設定を変更してセキュリティを下げた（下にある項目に変更した）ときは、本ドライバーやファームウェアアップデートの終了後（ドライバーインストール直後にファームウェアアップデートを行う場合はファームウェアアップデート後）に設定を元に戻してください。

第3章 インストール

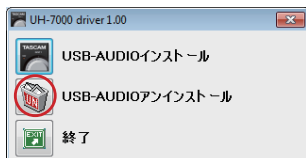
ドライバーのアンインストール

Windows

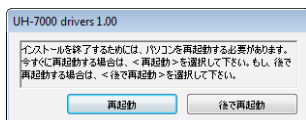
ドライバーをアンインストールするには、以下の2通りの方法があります。

● インストール時に使った《setup.cmd》からアンインストールする

1. 9ページ「Windows用ドライバーのインストール」の手順**2.**～**4.**の操作します。
2. 手順**5.**で《USB-AUDIO アンインストール》ボタンをクリックします。



3. 次の画面が表示されたら、アンインストール (Remove) 作業は完了です。
《再起動》ボタンをクリックします。アンインストーラー (Remover) が終了し、パソコンを再起動させます。



● Windows の《プログラムと機能》からアンインストールする

1. 《スタート》→《コントロールパネル》で、《プログラムと機能》を実行します。

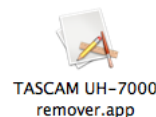
メモ

Windows 8では、スタート画面上で右クリックして表示されたアプリバーで、《すべてのアプリ》ボタン (Windows 8.1ではスタート画面左下の↓ボタン) をクリックして表示されるアプリ画面で《コントロールパネル》をクリックします。

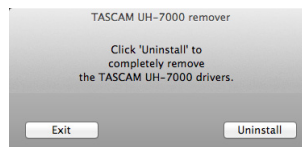
2. 《表示方法:》項目が《カテゴリー》(Windows XPIは《カテゴリー表示》) の場合は、《プログラム》項目の中の《プログラムのアンインストール》をクリックします。
《表示方法:》項目が《大きいアイコン (L)》または《小さいアイコン (S)》(Windows XPIは《クラシック表示》) の場合は、《プログラムと機能》を実行します。
3. 一覧の中から《UH-7000 drivers》を選択し、ダブルクリックします。
4. 以降は、スクリーンの指示にしたがってください。

Mac OS X

1. インストール時に使用したディスクイメージファイル《TASCAM_UH-7000_driver_X.XX.dmg》をダブルクリックし、開いたフォルダー内の《TASCAM UH-7000 remover》をダブルクリックします。

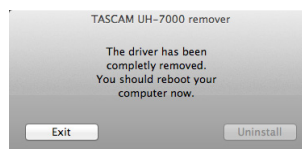


2. 《Uninstall》ボタンをクリックします。

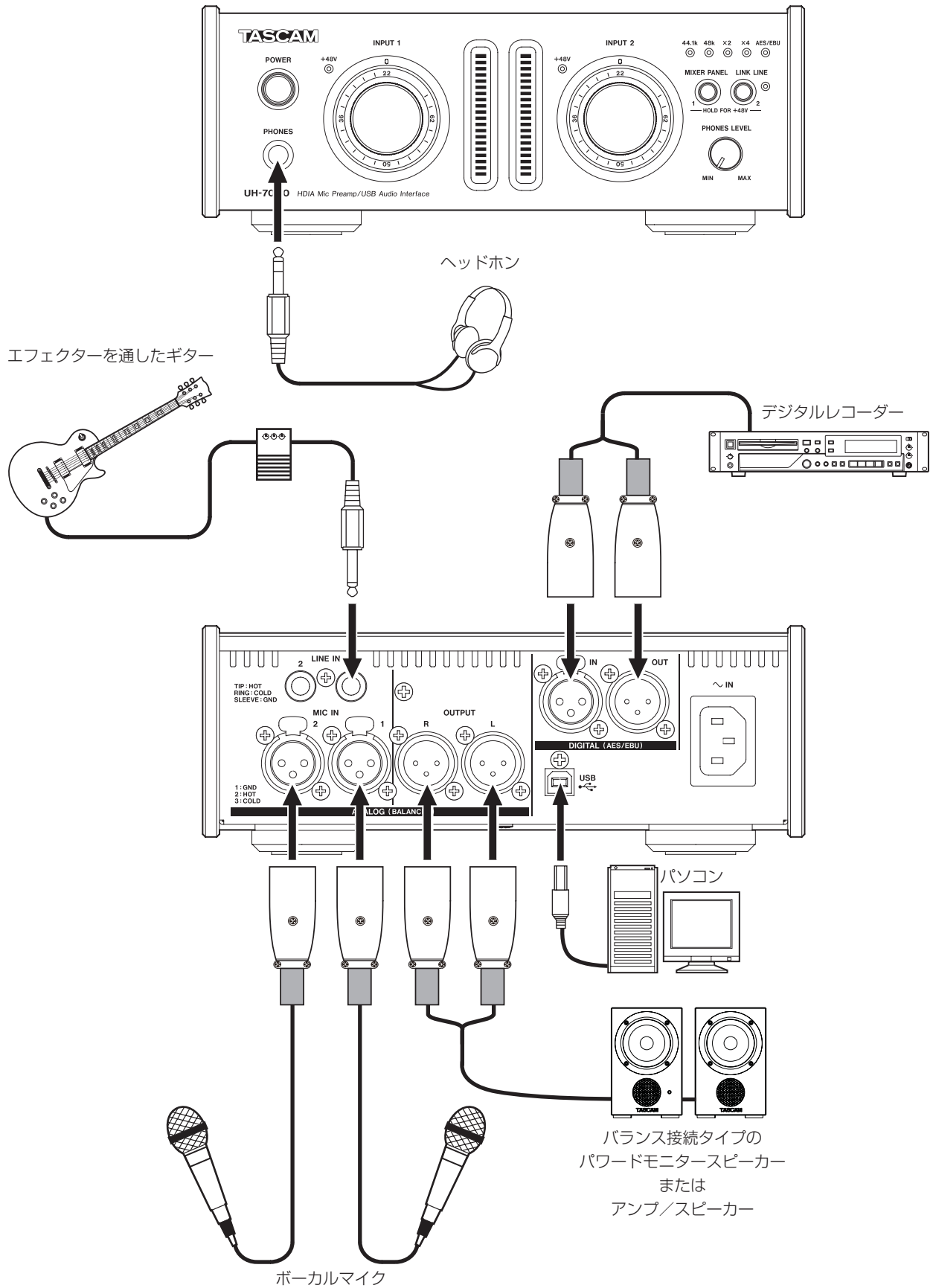


以降は、スクリーンの指示にしたがってください。

3. 次の画面が表示されたら、アンインストール (Remove) 作業は完了です。
《Exit》ボタンをクリックすると、アンインストーラー (Remover) が終了します。



4. パソコンを再起動させてください。



[UH-7000を使った接続例]

USBの接続

付属のUSBケーブルを使って、図のように本機とパソコンを接続してください。

注意

USB機器の中には、USBバスを頻繁に使用するものがあります。オーディオ信号のドロップアウト、クリックノイズなどを避けるために本機が接続されているUSBバス上には、他のUSB機器を接続しないことを強くお勧めします。ただし、USBキーボードとUSBマウスは接続しても問題ありません。

オーディオの接続

マイク、キーボード、オーディオ機器など、本機に入力されたアナログ音声信号は、デジタル信号に変換された後にUSBを経由してパソコンに送られます。また、スピーカー（アンプ経由）やヘッドホンの本機に接続することにより、本機に入力されるオーディオ信号やパソコンからの出力信号をモニターすることができます。

注意

オーディオ機器を接続する場合には、INPUT 1 / 2つまみ、およびPHONES LEVELつまみを下げた状態で行ってください。モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴力障害の原因になる可能性があります。

マイク

マイクは、リアパネルのANALOG (BALANCED) MIC IN 1 / 2端子に接続します。ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクをご使用になる場合は、以下の操作でファントム電源をオンにします。

- ANALOG (BALANCED) MIC IN 1端子にファントム電源をオンにするには：
《MIXER》タブ画面の《Analog 1》チャンネルのアナログ入力切り換えボタンを《MIC》に選択し、INPUT 1の+48Vインジケータが点灯するまでMIXER PANELボタンを押し続けます。
- ANALOG (BALANCED) MIC IN 2端子にファントム電源をオンにするには：
《MIXER》タブ画面の《Analog 2》チャンネルのアナログ入力切り換えボタンを《MIC》に選択し、INPUT 2の+48Vインジケータが点灯するまでLINK LINEボタンを押し続けます。

注意

- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合のみ、ファントム電源をオンにしてください。
- ダイナミックマイクなどファントム電源を必要としないマイクを接続しているときにファントム電源をオンにすると、機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源をオンにした状態で、マイクの抜き挿しをしないでください。大きなノイズを発生し、機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源のオン/オフ切り換えは、PHONES LEVELつまみと《MIXER》タブ画面のマスターフェーダーを下げた状態で行ってください。マイクによっては大きなノイズを発生し、モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴力障害の原因になる可能性があります。
- リボンマイクの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクにファントム電源を供給しないでください。
- 本機の電源を切るとファントム電源の設定はリセットされ、次に電源を入れたときはファントム電源はオフとなります。ファントム電源が必要な場合は再度ファントム電源をオンにする操作を行ってください。

音源モジュール / MD / CDなど（デジタル接続）

これらの機器のデジタル入出力は、リアパネルのDIGITAL (AES/EBU) IN / OUT端子に接続します。

メモ

本機は、AES/EBUまたはS/PDIFデジタル音声信号を出力することができます。出力フォーマットの設定は、ミキサーパネルの《MIXER》タブ画面内の《DIGITAL OUTPUTS FORMAT》ボタンで行います。

注意

デジタル入力を使用するには、ミキサーパネルの《INTERFACE》タブ画面内の《Sample Clock Source》設定を、《Automatic》に設定する（=接続相手をクロックマスターにする）必要があります。《Sample Clock Source》が《Internal》の場合は、DIGITAL (AES/EBU) IN端子の信号を入力することができず、本機の内部でDIGITAL (AES/EBU) OUT端子の信号がそのままデジタル入力としてループバックされます。この場合、コンピューターアプリケーションの設定によっては、DIGITAL (AES/EBU) OUT端子の信号がループ状態となり、ノイズを発生する原因となります。次に例と対策を記述します。

例)

DAWアプリケーションで、あるトラックの入力に本機のデジタル入力が、出力に本機のデジタル出力がアサインされていたとします。この場合、そのトラックが入力モニター状態になっていると、下記のノイズループが形成されてしまいます。トラックの出力→本機のデジタル出力→本機のデジタル入力→トラックの入力→トラックの出力（始めに戻る）

対策)

このループを回避するには、DAWアプリケーションで入力モニターをオフにするか、そのトラックの入力アサインを本機のデジタル入力以外に設定します。

電子楽器／オーディオ機器など（アナログ接続）

電子楽器やオーディオ機器などを接続する場合は、リアパネルのANALOG (BALANCED) LINE IN 1 / 2端子に接続します。

アナログレコードプレーヤー

アナログレコードプレーヤーの出力は、直接本機に接続することができません。アナログレコードプレーヤーを本機に接続するには、アナログレコードプレーヤーと本機の間にはフォノイコライザーアンプが必要です（あるいはフォノ入力端子を持つオーディオアンプの出力端子と接続します）。

モニタースピーカー

モニタースピーカー（パワーモニタースピーカーまたはアンプ／スピーカーシステム）は、リアパネルのANALOG (BALANCED) OUTPUT L / R端子に接続します。

ヘッドホン

ヘッドホンは、フロントパネルのPHONES端子（ステレオ標準ジャック）に接続します。

第5章 ミキサーパネルの設定

ミキサーパネルを使って、本機の各種機能の設定変更や保存を行うことができます。

ミキサーパネルを開く

本機のフロントパネルにあるMIXER PANELボタンを押して、パソコンのディスプレイ上にミキサーパネルを表示します。

ミキサーパネルについて

ミキサーパネルには、3つのタブ画面があります。ミキサーパネル上部の各タブをクリックすると、選択されたタブ画面の表示になります。

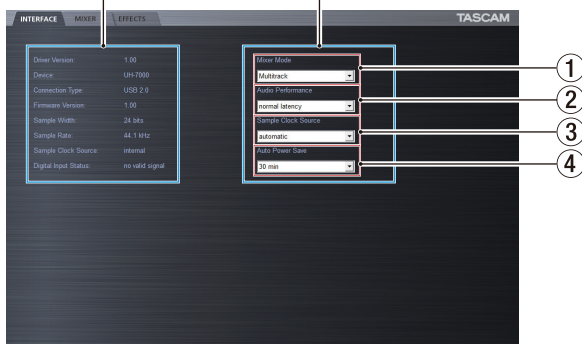
- INTERFACE** : ドライバーの現在のステータス（状態）／接続情報を表示すると同時に、各種設定を行います。
- MIXER** : 内蔵ミキサーの設定を行います。
- EFFECTS** : 内蔵エフェクターの設定を行います。

注意

ミキサーパネルの各タブ画面（INTERFACE / MIXER / EFFECTS）の設定値は、各タブ画面内で設定しただけでは本機のメモリーに保存されません。本機のメモリーに保存するには、メニューバーにある《File》メニュー（Windows）または《TASCAM UH-7000 Mixer Panel》（Mac）から保存操作を行ってください。（→ 26ページ「ミキサーパネルのプルダウンメニュー」）

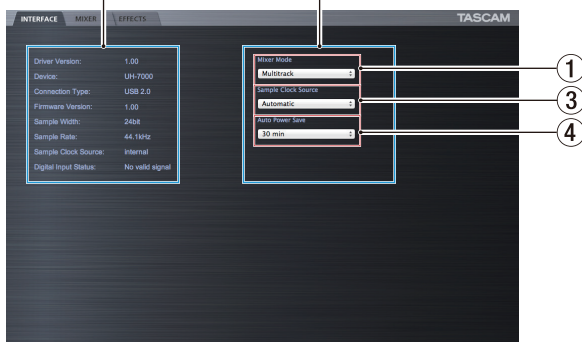
《INTERFACE》タブ画面

ステータス（状態）表示部 設定項目表示部



[Windows版《INTERFACE》タブ画面]

ステータス（状態）表示部 設定項目表示部



[Mac版《INTERFACE》タブ画面]

《INTERFACE》タブ画面は、ステータス（状態）表示部と設定項目表示部の2つの表示部に分かれて表示しています。

ステータス（状態）表示部

ドライバーおよび現在のステータス（状態）を表示しています。

表示項目	表示内容
《Driver Version》	ドライバーのバージョン
《Device》	本機の装置名
《Connection Type》	パソコンとの接続形態
《Firmware Version》	本機のファームウェアバージョン
《Sample Width》	現在の量子化ビット数
《Sample Rate》	現在のサンプリング周波数
《Sample Clock Source》	本機のサンプリングクロックのソース
《Digital Input Status》	デジタル入力の状態

本機のデジタル入力の状態によって《Digital Input Status》項目は、次のように表示されます。

表示	内容
《Valid signal》	有効なデジタル信号が入力されています。
《No valid signal》	有効なデジタル信号が入力されていません。接続されている機器のデジタル出力フォーマットが本機の仕様合っているかを確認してください。
《Unavailable》	《Sample Clock Source》項目の設定が《Internal》となっているためデジタル入力することができません。

設定項目表示部

ドライバーの各設定項目を設定します。

① Mixer Mode項目

用途に応じて、ミキサーモードを切り換えることができます。

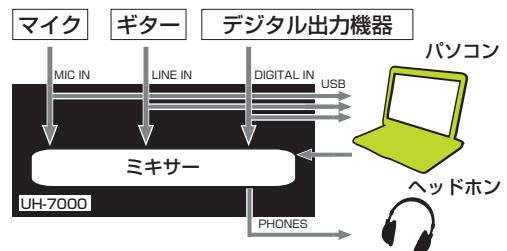
選択肢：

《Multitrack》（初期値）：

DAW（例：SONAR）などを使用し、マルチトラック録音をする場合に設定します。

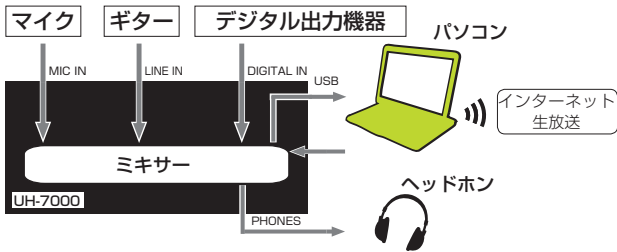
各入力は、マルチトラック録音用にそれぞれ独立した信号でUSBを経由してパソコンに送られます。同時に、各入力音とパソコンからの再生音をミキサーでミックスし、さらにエフェクトをかけることにより、お好みのモニター音を作ることが可能です。

ミキサーからはステレオ出力され、ヘッドホンやアウトプット出力に接続したスピーカーなどで聴くことができます。



《Stereo Mix》:

インターネットを使用した生放送や動画コンテンツの音声録音など、ステレオミックスした音を放送/録音する場合や、DSPミキサーの機能を使ってミックスしたステレオトラックを録音する場合に設定します。
各入力端子からの入力信号とUSB経由でパソコンから送られてくる再生信号をミックスし、各出力端子およびパソコンへ送ります。
ミキサーからはステレオ出力され、ヘッドホンやアウトプット出力に接続したスピーカーなどで聴くことができます。



《Multitrack》モードおよび《Stereo Mix》モードの音の流れ（オーディオフロー）の詳細については、37ページ「オーディオフローダイアグラム」をご覧ください。

メモ

《Stereo Mix》モードで使用する際には、次のことにご注意ください。

インターネットの生放送などを行う際、音がループしてエコーのような反響音を出してしまうことがあるため、使用するアプリケーション画面内の音量設定は [0]（ゼロ）に設定してください。



音量 [0]

② Audio Performance項目 (Windowsのみ)

本機のドライバーは、パソコンとやりとりするオーディオ入出力信号を一時的にバッファーに蓄えています。
ユーザー環境に合わせて、バッファーサイズを調節することができます。

選択肢:

- 《Highest latency》 : バッファーサイズ最大
- 《High latency》 : バッファーサイズ大
- 《Normal latency》 (初期値) : バッファーサイズ中
- 《Low latency》 : バッファーサイズ小
- 《Lowest latency》 : バッファーサイズ最小

メモ

- バッファーサイズを小さくするとオーディオ信号の遅れが小さくなりますが、パソコンの高速処理が要求されます。他のシステム操作を行った場合などに処理が間に合わないと、オーディオ信号にクリックノイズ、ポップノイズ、ドロップアウトなどが発生する場合があります。
- バッファーサイズを大きくすると動作が安定し、システム操作のオーディオ信号への悪影響に対して強くなりますが、パソコンとやりとりするオーディオ信号の遅れが大きくなります。
- Mac OS Xでは、バッファーサイズを使用する各オーディオアプリケーションにて設定を行います。詳しくは、お使いになるオーディオアプリケーションの取扱説明書などをご参照ください。

③ Sample Clock Source項目

サンプリングクロックのソースを設定します。

選択肢:

《Automatic》 (初期値):

DIGITAL (AES/EBU) IN端子に信号が入力されているときは、そのクロックを使用します。DIGITAL (AES/EBU) IN端子に信号が入力されていないときは、本機の内部クロックを使用します。

《Internal》:

常に本機の内部クロックを使用します。

メモ

- デジタル入力を使用する場合は、《Automatic》に設定してください。
- 《Automatic》に設定の場合は、デジタル入力があるときには左側のステータス (状態) 表示部の《Sample Clock Source》項目が《Digital Input》に、デジタル入力がないときには《Internal》 (内部クロック) に自動的に表示が切り換わります。

④ Auto Power Save項目

スタンバイモード動作時、最後に操作してから30分間経過した場合、または-50dBFS以下の状態が30分間経過した場合に、自動的に電源をオフ (スタンバイ状態) にするかを設定します。設定は、本体のメモリーに保存後に有効になります。(→ 28ページ「ミキサーパネルの設定の保存」)

選択肢:

《30min》 (初期値):

オートパワーセーブ機能をオンにします。

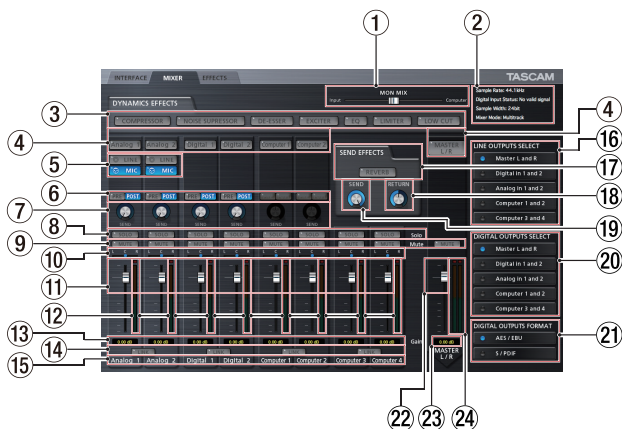
《OFF》:

オートパワーセーブ機能をオフにします。

メモ

オートパワーセーブ機能により自動的に電源がオフ (スタンバイ状態) になったときに電源を再投入したい場合は、一度POWERスイッチを押したあと8秒以上経過してから、再度POWERスイッチを押して電源を入れてください。

《MIXER》タブ画面



《MIXER》タブ画面は、内蔵ミキサーおよび出力信号の設定を行います。

この画面は、《INTERFACE》タブ画面の《Mixer Mode》項目の設定により、表示内容が異なります。

メモ

《MIXER》タブ画面の設定は、《SOLO》ボタン以外の設定について電源オフ後（再起動時）も設定が保持されます。ソロボタンの設定は電源オフ後（再起動時）には初期値になります。

① MON MIXスライダー

《INTERFACE》タブ画面の《Mixer Mode》項目が《Multitrack》に設定されている場合に、このスライダーを使って内蔵ミキサーから出力される信号のバランスを調節します。

《Input》側にすると本機の入力信号のみ、《Computer》側にするとUSB経由で入力されたパソコンの出力信号のみを出力します。

ノブの部分をクリックしたまま左右に動かして（ドラッグ）で調節します。

《INTERFACE》タブ画面の《Mixer Mode》項目が《Stereo Mix》に設定されている場合は、《MON MIX》スライダーは表示されません。各入力端子からの入力信号とUSB経由で入力されたパソコンの出力信号をミックスして出力します。

メモ

《Mixer Mode》項目が《Multitrack》に設定されている場合に、パソコンのキーボードで以下のキーを押しながら《MON MIX》スライダーのノブをクリックすると、ノブが中央に戻ります。

- Windows PC : ctrlキー
- Mac : commandキー

② ステータス（状態）表示部

本機の現在の状態を表示します。

- 《Sample Rate》 : サンプル周波数
- 《Sample Width》 : 量子化ビット数
- 《Digital Input Status》 : デジタル入力の状態を表示します
- 《Mixer Mode》 : ミキサーモードを表示します

③ ダイナミクスエフェクトボタン

使用するダイナミクスエフェクトのボタンをクリックして、エフェクトを選択します。

2種類以上のダイナミクスエフェクトを同時に使用することはできません（リミッター機能とローカットフィルター機能の組み合わせを除く）。

選択肢：

- オフ（初期値） : エフェクト名が消灯
- オン : エフェクト名が点灯

使用するダイナミクスエフェクトを変更するには、使用しているエフェクト以外のエフェクトのボタンをクリックします。使用していたエフェクトが自動的にオフになり、新しく選択されたエフェクトがオンになります。

メモ

- サンプル周波数の条件により使用できない場合は、選択することができません。
- このボタンによるダイナミクスエフェクトのオン／オフと、《EFFECT》タブ画面のダイナミクスエフェクトのオン／オフの状態は連動します。
- サンプル周波数が44.1k Hzまたは48k Hzのときは、リミッター機能とローカットフィルター機能を組み合わせて同時に使用することができません。その場合には、 SENDエフェクトは使用できません。（→ 23ページ「ダイナミクスエフェクト」）

④ ダイナミクスエフェクトのアサインボタン

ダイナミクスエフェクトをアサインする各チャンネルのボタン、または《MASTER L/R》ボタンをクリックして、エフェクトをアサインします。

複数のチャンネルを同時にアサインすることはできません。

選択肢：

- オフ（初期値） : チャンネル名のボタンが消灯
- オン : アサイン先のチャンネル名のボタンが点灯

すでにダイナミクスエフェクトがアサインされたチャンネルとは別のチャンネルにアサインする場合は、アサインしたいチャンネル名のボタンを押します。今までアサインされていたチャンネル名のボタンが消灯し、新しくアサインされたチャンネル名のボタンが点灯し、アサインが切り換わります。

⑤ アナログ入力切り換えボタン

《Analog 1》チャンネルおよび《Analog 2》チャンネルに入力するアナログ入力を選択します。入力を選択したボタンが点灯します。

《LINE》ボタン : ANALOG (BALANCED) LINE IN 1 / 2 端子から入力します。

《MIC》ボタン : ANALOG (BALANCED) MIC IN 1 / 2 端子から入力します。

⑥ エフェクトSEND選択ボタン

SENDバスに送る信号の取り出し位置を選択します。
選択されたボタンが点灯します。

- 《PRE》ボタン : チャンネルフェーダーの手前の信号をSENDバスに送ります。SENDレベルがチャンネルフェーダーの影響を受けなくなります。
- 《POST》ボタン (初期値) : チャンネルフェーダーの後の信号をSENDバスに送ります。SENDレベルがチャンネルフェーダーの影響を受けます。

メモ

《PRE》ボタンおよび《POST》ボタンのどちらも選択しない場合は、SENDバスへ信号は送られません。

⑦ SENDつまみ

SENDバスに送る信号のレベル (SENDレベル) を調節します。

調節範囲 : 0 ~ 127 (初期値 : 0)

《SEND》つまみをマウスでクリックしたまま上下に動かし (ドラッグ) て、SENDレベルを調節します。
マウスをドラッグしている間は、調節した値が《SEND》つまみの下側に表示されます。

⑧ SOLOボタン

《SOLO》ボタンをクリックすると、《SOLO》ボタンが点灯したチャンネルがソロになります。そのとき、ソロを選択していないチャンネルは自動的にミュートされて、《MUTE》ボタンが点灯します。(初期値 : オフ)
また、複数のチャンネルを同時にソロにすることも可能です。

メモ

- 全ての《SOLO》ボタンがオフの状態、あるチャンネルの《SOLO》ボタンをクリックするとソロモードへ入り、他の全てのチャンネルが自動的にミュートされて、《MUTE》ボタンが点灯します。
- 全ての《SOLO》ボタンがオフになると、ソロモードが解除されます。このとき、ソロモードにより自動的にミュートされていたチャンネルのミュートが解除され、ソロモードに入る前のミュート状態が復帰します。
- 《MASTER L/R》チャンネルの《MUTE》ボタンは、ソロにより自動的にオンにはなりません。
- ソロの設定は、保存されません。電源オフ後 (再起動時) は、全てのソロとミュートが解除されます。

⑨ MUTEボタン

《MUTE》ボタンをクリックすると、《MUTE》ボタンが点灯したチャンネルがミュート (消音) されます。(初期値 : オフ)

メモ

ミュートは、《MUTE》ボタンでのオン/オフ時以外に、《SOLO》ボタンを使用したときにも自動的に切り換わります。

⑩ パンスライダー

各チャンネルの入力信号のステレオ定位を調節します。
パンスライダーのノブをマウスでクリックしたまま左右に動かし (ドラッグ) て、ステレオ定位を調節します。
マウスをドラッグしている間は、調節した位置がフェーダーレベル表示部 (⑬) に表示されます。
左端のときは《L15》、右端のときは《R15》になります。
中央では《C》を表示します。

設定範囲:《L15》-《L1》、《C》、《R1》-《R15》 (初期値:《C》)

パンスライダーのノブの色は、中央《C》のとき青色、それ以外は黄色になります。

メモ

- パンスライダーのノブが中央のとき、3dB下げられた信号が奇数チャンネルはLバスに、偶数チャンネルはRバスに送られます。
- 《LINK》ボタンがオンのとき、パンスライダーはLチャンネル (奇数チャンネル) とRチャンネル (偶数チャンネル) の音量バランス調節になります。
- パソコンのキーボードで以下のキーを押しながらパンスライダーのノブをクリックすると、ノブが《C》の位置に戻ります。
Windows PC : ctrlキー
Mac : commandキー

⑪ チャンネルフェーダー

各チャンネルのミックスレベルを調節します。
チャンネルフェーダーのフェーダーノブをマウスでクリックしたまま上下に動かし (ドラッグ) て、チャンネルレベルを調節します。
調節した値が、フェーダーレベル表示部 (⑬) に表示されます。

メモ

パソコンのキーボードで以下のキーを押しながらチャンネルフェーダーのフェーダーノブをクリックすると、フェーダーノブが《0》dBの位置に戻ります。

Windows PC : ctrlキー
Mac : commandキー

⑫ チャンネルレベルメーター

入力信号のレベルをチャンネルレベルメーターに表示します。
レベルメーターの最上部は、オーバーロードインジケーターです。
《Multitrack》モードではエフェクトがかかる前のレベル、
《Stereo Mix》モードではエフェクトがかかった後のレベルを表示します。

メモ

各チャンネルのメーターはプリフェーダー (フェーダーに入る前) です。フェーダーで調節する、またはミュートをかけてもレベルメーターには反映されません。

⑬ フェーダーレベル表示部 / パン位置表示部

この表示部の上にあるチャンネルフェーダーのレベルをデシベル単位の数値で表示します。

パンスライダーを使ってステレオ定位を調節しているときは、パンスライダーの調節位置を表示します。

第5章 ミキサーパネルの設定

⑭ LINKボタン

《LINK》ボタンをクリックすると、《LINK》ボタンに対して隣り合うチャンネルのミキサー機能がステレオリンクし、《LINK》ボタンが点灯します。(初期値：オフ)

ステレオリンクがオンのとき、ステレオリンクモードの表示に変わり、各チャンネルの各ボタンおよび各つまみ類が統合されます。また、チャンネルレベルメーターがステレオ表示になります。

メモ

- ステレオリンクをオンにした場合、各ボタンおよび各つまみ類の設定は、リンク前の奇数チャンネルの設定になります。ただし、パンスライダは中央《C》に設定されます。
- ステレオリンクをオフにした場合、両チャンネルともリンク時の設定が保持されます。ただし、ダイナミクスエフェクトのアサインは奇数チャンネルに、パンスライダは中央《C》に設定されます。
- ステレオリンクをオンにした場合、パンスライダのノブが中央《C》のとき、3dB下げられた信号が奇数チャンネルはLバスに、偶数チャンネルはRバスに送られます。このため、ステレオリンクせずに奇数チャンネルのパンスライダを《L15》にし、偶数チャンネルを《R15》にした場合より3dB小さくなります。

⑮ チャンネル名表示

本機の入力端子のチャンネル名、およびパソコンの出力信号のチャンネル名を表示します。

設定したミキサーモードにより、使用可能なチャンネルが異なります。

⑯ LINE OUTPUTS SELECTボタン

ANALOG (BALANCED) OUTPUT L / R端子、および PHONES端子から出力する信号を選択します。

選択肢

《Master L and R》ボタン (初期値) :

ANALOG (BALANCED) LINE IN 1 / 2端子または MIC IN 1 / 2端子に入力された信号、およびDIGITAL (AES/EBU) IN端子に入力された信号とUSB経由で入力されたパソコンの出力信号をミキサーでミックスした信号を出力します。

《Analog in 1 and 2》ボタン :

ANALOG (BALANCED) LINE IN 1 / 2端子または MIC IN 1 / 2端子に入力された信号を、直接出力します。

《Digital in 1 and 2》ボタン :

DIGITAL (AES/EBU) IN端子に入力された信号を、直接出力します。

《Computer 1 and 2》ボタン :

パソコンの《Computer 1》と《Computer 2》からの出力を、直接出力します。

《Computer 3 and 4》ボタン :

パソコンの《Computer 3》と《Computer 4》からの出力を、直接出力します。

メモ

《INTERFACE》タブ画面の《Mixer Mode》項目の設定により、選択可能な入力先が異なります。

LINE OUTPUTS SELECTボタン	《Mixer Mode》項目	
	Multitrack	Stereo Mix
Master L and R	点灯	点灯
Analog in 1 and 2	点灯	消灯
Digital in 1 and 2	点灯	消灯
Computer 1 and 2	点灯	消灯
Computer 3 and 4	点灯	消灯

⑰ センドエフェクトボタン

《REVERB》ボタンを押して、ステレオバスにエフェクト (REVERB) をかけます。(初期値：オフ)

リバーブがオンのとき、《REVERB》ボタンが点灯します。

メモ

- サンプリング周波数の条件により使用できない場合は、オンにすることはできません。
- このボタンでのSENDエフェクトのオン/オフと《EFFECTS》タブ画面でのSENDエフェクトのオン/オフの状態は、連動します。

⑱ RETURNつまみ

SENDエフェクトからステレオバスに戻す信号のリターンレベルを調節します。

調節範囲：0～127 (初期値：64)

《RETURN》つまみをマウスでクリックしたまま上下に動かし (ドラッグ) て、リターンレベルを調節します。

マウスをドラッグしている間は、調節した値が《RETURN》つまみの下側に表示されます。

⑲ SENDつまみ

SENDバスからSENDエフェクトに送る信号のSENDマスターレベルを調節します。

調節範囲：0～127 (初期値：127)

《SEND》つまみをマウスでクリックしたまま上下に動かし (ドラッグ) て、SENDレベルを調節します。

マウスをドラッグしている間は、調節した値が《SEND》つまみの下側に表示されます。

⑳ DIGITAL OUTPUTS SELECTボタン

DIGITAL (AES/EBU) OUT端子から出力する信号を選択します。

選択肢

《Master L and R》ボタン (初期値) :

ANALOG (BALANCED) LINE IN 1 / 2端子または MIC IN 1 / 2端子に入力された信号、およびDIGITAL (AES/EBU) IN端子に入力された信号とUSB経由で入力されたパソコンの出力信号をミキサーでミックスした信号を出力します。

《Analog in 1 and 2》ボタン :

ANALOG (BALANCED) LINE IN 1 / 2端子または MIC IN 1 / 2端子に入力された信号を、直接出力します。

《Digital in 1 and 2》ボタン :

DIGITAL (AES/EBU) IN端子に入力された信号を、直接出力します。

《Computer 1 and 2》ボタン :

パソコンの《Computer 1》と《Computer 2》からの出力を、直接出力します。

《Computer 3 and 4》ボタン :

パソコンの《Computer 3》と《Computer 4》からの出力を、直接出力します。

メモ

- 《INTERFACE》タブ画面の《Mixer Mode》項目の設定により、選択可能な入力先が異なります。

DIGITAL OUTPUTS SELECTボタン	《Mixer Mode》項目	
	Multitrack	Stereo Mix
Master L and R	点灯	点灯
Analog in 1 and 2	点灯	点灯
Digital in 1 and 2	点灯	点灯
Computer 1 and 2	点灯	点灯
Computer 3 and 4	点灯	消灯

- ミキサー機能を通さずにWindows Media Player やiTunes などの出力を本機のDIGITAL (AES/EBU) OUT端子から出力したい場合は、《DIGITAL OUTPUTS SELECT》ボタンの設定を《Computer 1 and 2》に設定してください。

㉑ DIGITAL OUTPUTS FORMATボタン

DIGITAL (AES/EBU) OUT端子に出力されるデジタル信号の出力フォーマットを選択します。

選択肢 : 《AES/EBU》(初期値)、《S/PDIF》

㉒ マスターフェーダー

出力信号のレベルを調節します。

マスターフェーダーのフェーダーノブをマウスでクリックしたまま上下に動かし(ドラッグ)て、マスターレベルを調節します。調節した値が、マスターフェーダーレベル表示部(㉓)に表示されます。

メモ

パソコンのキーボードで以下のキーを押しながらマスターフェーダーのフェーダーノブをクリックすると、フェーダーノブが《0》dBの位置に戻ります。

Windows PC : ctrlキー
Mac : commandキー

㉓ マスターフェーダーレベル表示部

マスターフェーダーのレベルをデシベル単位の数値で表示します。

㉔ マスターレベルメーター

マスターレベルをステレオレベルメーターに表示します。レベルメーターの最上部は、オーバーロードインジケーターです。

メモ

マスターレベルメーターはポストフェーダー(フェーダーを通した後)です。フェーダーで調節する、またはミュートをかけたりするとレベルメーターに反映されます。

《EFFECTS》タブ画面



《EFFECTS》タブ画面は、内蔵エフェクターの設定を行います。

メモ

《EFFECTS》タブ画面の設定は、電源オフ後（再起動時）も設定が保持されます。

① ダイナミクスエフェクトタブ

使用するダイナミクスエフェクトのタブをクリックすると、選択されたエフェクトが前面に表示されます。

選択肢：

《COMPRESSOR》、《NOISE SUPPRESSOR》、《DE-ESSER》、《EXCITER》、《EQ》、《LIMITER/LOW CUT》

各ダイナミクスエフェクトの詳細は、23ページ「ダイナミクスエフェクト」をご参照ください。

② パラメーター調節つまみ

各パラメーターのつまみをマウスでクリックしたまま上下に動かす（ドラッグ）て、調節します。

調節した各パラメーターの値は、各つまみの上側に表示されます。

各エフェクトのパラメーターの詳細は、23ページ「ダイナミクスエフェクト」および 25ページ「SENDエフェクト」をご参照ください。

③ ダイナミクスエフェクトのオン／オフボタン、インジケータ

表示中のダイナミクスエフェクトタブのエフェクト名またはインジケータをクリックすると、ダイナミクスエフェクトをオン／オフします。

ダイナミクスエフェクトがオンのとき、エフェクト名が点灯します。

メモ

- 2種類以上のダイナミクスエフェクトを同時に使用することはできません。そのため、使用している以外のダイナミクスエフェクトをオンにすると、現在使用中のダイナミクスエフェクトは自動的にオフになります。ただし、サンプリング周波数が44.1k Hzまたは48k Hzのときは《LIMITER/LOW CUT》タブの《LIMITER》ボタンと《LOW CUT》ボタンの組み合わせのみ同時に使用することができます。その場合には、SENDエフェクトは使用できません。
- このダイナミクスエフェクトのオン／オフと、ミキサーパネル上のダイナミクスエフェクトのオン／オフの状態は連動します。
- サンプリング周波数の条件により使用できない場合は、オンにすることはできません。

④ リバートタイプ選択スイッチ

本機の《REVERB》エフェクトには、5種類のリバートタイプがあります。

使用するリバートタイプ名をクリックすると、選択されたリバートタイプ名が点灯します。

各パラメーターの詳細は、25ページ「SENDエフェクト」をご参照ください。

⑤ SENDエフェクトのオン／オフボタン、インジケータ

SENDエフェクトタブのエフェクト名またはインジケータをクリックすると、SENDエフェクト（REVERB）をオン／オフします。

SENDエフェクトがオンのとき、エフェクト名が点灯します。

メモ

- このSENDエフェクトのオン／オフとミキサーパネル上のSENDエフェクトのオン／オフの状態は連動します。
- サンプリング周波数の条件により使用できない場合は、オンにすることはできません。

内蔵エフェクターの使用制限について

内蔵エフェクターは、サンプリング周波数によって使用できるエフェクトの数の制限があります。

- 44.1k/48k Hzのときは、ダイナミクスエフェクトおよびSENDエフェクトの各エフェクトを1種類ずつ使用できます。ただし、《LIMITER/LOW CUT》タブの《LIMITER》ボタンと《LOW CUT》ボタンの組み合わせのみ同時に使用することができます。その場合には、SENDエフェクトは使用できません。
- 88.2k/96k Hzのときは、ダイナミクスエフェクトおよびSENDエフェクトの中から1種類のエフェクトだけが使用可能です（エフェクトがオンになっているときに他のエフェクトをオンにすると、それまでオンになっていたエフェクトは自動的にオフになります）。
- 176.4k/192k Hzのときは、内蔵エフェクトは使用できません。

ダイナミクスエフェクト

COMPRESSOR (コンプレッサー)

入力音量がスレッシュホルドレベルを超えた場合に、コンプレッション（音量の変化幅を圧縮）し、音量のバラつきを抑えます。

たとえば、発音時のレベルの高い部分を潰して全体のレベルをそろえ、減衰音のレベルを持ち上げることによって伸びのある音にすることができます。

《COMPRESSOR》タブでは、コンプレッサーの入力信号レベル（《INPUT》）と出力信号レベル（《OUTPUT》）、およびゲインリダクションレベル（《GR》）の3種類のメーターで状態を表示しています。



THRESHOLDつまみ

エフェクトをかけ始めるレベル（スレッシュホルドレベル）を調節します。

設定範囲：-32dB ~ 0dB（初期値：-12dB）

RATIOつまみ

入力音量の圧縮率を設定します。

右へ回すほど圧縮率が高くなり、圧縮幅が増加します。

設定範囲：1.0 : 1 ~ inf : 1（初期値：2.0 : 1）

ATTACKつまみ

入力音量がスレッシュホルドレベルを超えた場合に、《RATIO》つまみで設定された圧縮率までに達するまでの時間を設定します。

設定範囲：2ms ~ 200ms（初期値：20ms）

RELEASEつまみ

入力音量がスレッシュホルドレベルより下がった後、圧縮が解除され通常のレベルに戻るまでの時間を設定します。

設定範囲：10ms ~ 1000ms（初期値：420ms）

GAINつまみ

出力音量の増幅幅を設定します。

コンプレッサーでは音量の圧縮を行うため、入力音に比べ出力音のレベルは低くなります。《GAIN》つまみで出力音を増幅させることにより、入力音に近いレベルに戻すことができます。

設定範囲：0dB ~ 32dB（初期値：4dB）

メモ

- 入力がステレオ信号（ステレオリンクしているチャンネルまたはマスター）の場合は、LチャンネルまたはRチャンネルのどちらか一方でもスレッシュホルドレベルを超えると圧縮動作が始まり、LチャンネルおよびRチャンネルの両方の音が圧縮されます。
- コンプレッサーがオフのときは、コンプレッサーのカーブは表示しますが、メーターの表示はしません。

NOISE SUPPRESSOR (ノイズサプレッサー)

スレッシュホルドレベルより音が小さいときに出力レベルを絞ることによりノイズを減衰させ、スレッシュホルドレベルを超えた際には通常のレベルで音を出すエフェクターです。

演奏あるいは発音していないときのノイズを軽減する用途に使用します。



THRESHOLDつまみ

エフェクトをかけ始める／かけなくするレベル（スレッシュホルドレベル）を調節します。

設定範囲：-84dB ~ -24dB（初期値：-64dB）

SUPPRESSIONつまみ

入力音量がスレッシュホルドレベルより下がったとき、どの程度出力レベルを減衰させるかの量を設定します。

大きな値に設定するほど出力レベル、ノイズが大きく減衰します。

設定範囲：12dB ~ 72dB（初期値：42dB）

ATTACKつまみ

入力音量がスレッシュホルドレベルより下がった場合に、目標の減衰量まで達する時間を設定します。

設定範囲：0ms ~ 4000ms（初期値：5ms）

RELEASEつまみ

入力音量がスレッシュホルドレベルを超えた場合に、減衰効果が無くなるまでの時間を設定します。

設定範囲：0ms ~ 4000ms（初期値：320ms）

メモ

入力がステレオ信号（ステレオリンクしているチャンネルまたはマスター）の場合は、LチャンネルおよびRチャンネルの両方がスレッシュホルドレベルを下回るとノイズサプレッサーが動作します。

第5章 ミキサーパネルの設定

DE-ESSER (ディエッサー)

高音領域に特化したコンプレッサーです。ボーカルの「サシスセソ」や「ツ」など高音のきつい発音を和らげるのに用います。



FREQUENCYつまみ

どの周波数以上の音でディエッサーを動作させるかを設定します。

設定範囲: 1k Hz ~ 4k Hz (初期値: 1.15k Hz)

DEPTHつまみ

圧縮の度合いを設定します。

値が大きいくほど圧縮が大きくなります (ディエッサー効果が大きくなります)。

設定範囲: 1 ~ 100 (初期値: 25)

EXCITER (エキサイター)

元の音を維持したまま高域の倍音を強調することにより、音をくっきり・きらびやかにするエフェクターです。



FREQUENCYつまみ

どの周波数以上の倍音を強調するかを設定します。

設定範囲: 1k Hz ~ 4k Hz (初期値: 2.00kHz)

DEPTHつまみ

倍音強調の度合いを設定します。

値が大きいくほどより強く強調されます。

設定範囲: 1 ~ 100 (初期値: 75)

EQ (3バンドイコライザー)

特定の周波数帯域を増幅あるいは減衰させるエフェクターです。個々の楽器の色付けや、幅広い帯域のバランス調整や余分な帯域のピンポイント・カットなどに使用します。



現在の設定での周波数特性を表示します (EQがオフのときもグラフは表示されます)。

HIGHバンドはハイシェルフ (棚型) イコライザー、LOWバンドはローシェルフ (棚型) イコライザー、MIDバンドはピーキング (ベル型) イコライザーです。

LOW GAINつまみ

LOWバンドの増幅・減衰量を設定します。

設定範囲: ±12dB (初期値: 0dB)

LOW FREQつまみ

LOWバンドのカットオフ周波数を設定します。

設定範囲: 32 Hz ~ 1.6k Hz (初期値: 100Hz)

MID GAINつまみ

MIDバンドの増幅・減衰量を設定します。

設定範囲: ±12dB (初期値: 0dB)

MID FREQつまみ

MIDバンドのセンター周波数を設定します。

設定範囲: 32 Hz ~ 18k Hz (初期値: 1.0k Hz)

MID Qつまみ

MIDバンドの尖鋭度 (尖り具合) を設定します。

値が大きいくほど尖った特性になり、狭い範囲の周波数帯域に作用します。値が小さいほどなだらかな特性になり、広い範囲の帯域に作用します。

設定範囲: 0.25 ~ 16 (初期値: 0.5)

HIGH GAINつまみ

HIGHバンドの増幅・減衰量を設定します。

設定範囲: ±12dB (初期値: 0dB)

HIGH FREQつまみ

HIGHバンドのカットオフ周波数を設定します。

設定範囲: 1.7k Hz ~ 18k Hz (初期値: 10k Hz)

LIMITER / LOW CUT(リミッター／ローカットフィルター)

このエフェクトタブは、リミッター機能とローカットフィルター機能を設定することができます。

リミッター機能(《LIMITER》)は、アナログ入力レベルに応じて本機の入力ゲインが変化し、大きい音が入力されても歪まないような録音レベルに調節する機能です。リミッター機能は、アナログ入力以外には使用することはできません。

ローカットフィルター機能(《LOW-CUT》)は、マイク入力時に入りやすい空調機の音や風の音などの低域ノイズを低減する機能です。



FREQUENCYつまみ

ローカットフィルターのカットオフ周波数を設定します。

選択肢：40Hz、80Hz(初期値)、120Hz

メモ

- サンプル周波数が44.1k/48kHzのときは、リミッター機能とローカットフィルター機能を同時に使用することができます。ただし、リミッター機能とローカットフィルター機能を同時に使用する場合は、センドエフェクトを使用することはできません。
- リミッター機能の設定はオン／オフのみで、設定可能なパラメーターはありません。

センドエフェクト

REVERB (リバーブ)

原音に対して残響を加えるエフェクターです。原音を様々な時間で遅延させた複数の音を自然に近い対時間減衰特性を持たせて混ぜることにより、ホール、ライブハウスやスタジオのような残響を生み出します。



リバーブタイプ選択スイッチ

リバーブタイプを選択します。

リバーブタイプによって残響音の密度やレベルが変化します。

選択肢：HALL(初期値)、ROOM、LIVE、STUDIO、PLATE

PRE DELAYつまみ

初期反射音の遅延時間を設定します。

値が大きいほど、広い空間の反射音となります。

設定範囲：0ms ~ 250ms(初期値：42ms)

REVERB TIMEつまみ

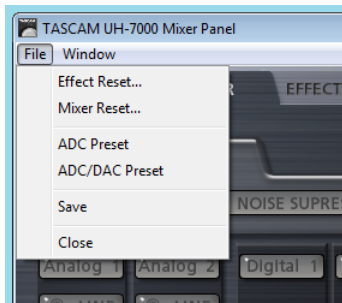
残響音の持続時間を設定します。

値が大きいほど残響音が長く持続します。

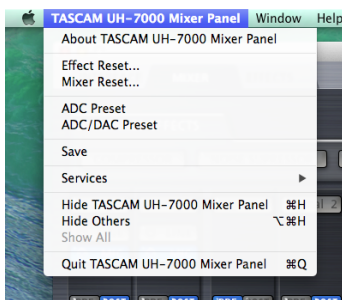
設定範囲：0.1s ~ 10s(初期値：2.7s)

ミキサーパネルのプルダウンメニュー

ミキサーの設定またはエフェクトの設定を初期化（リセット）するには、メニューバーにある《File》メニュー（Windows）または《TASCAM UH-7000 Mixer Panel》（Mac）から操作を行います。



[ミキサーパネル Windows版]



[ミキサーパネル Mac版]

Effect Reset項目

《EFFECTS》タブ画面内の全ての設定項目を初期化します。（→ 26ページ「エフェクト設定の初期化」）

Mixer Reset項目

《MIXER》タブ画面内の設定項目を初期化します。（→ 27ページ「ミキサー設定の初期化」）

ADC Preset項目

本機をA/Dコンバーターとして使用する場合に、ミキサーパネルの各タブ画面の設定項目がA/Dコンバーターとして使用しやすい設定値に設定します。（→ 27ページ「A/Dコンバーターとして使う」）

ADC / DAC Preset項目

本機をA/DコンバーターおよびD/Aコンバーターとして使用する場合に、ミキサーパネルの各タブ画面の設定項目がA/DまたはD/Aコンバーターとして使用しやすい設定値に設定します。（→ 28ページ「A/DコンバーターおよびD/Aコンバーターとして使う」）

Save項目

現在のミキサーパネルの設定内容を本体のメモリーに保存します。ここで保存された設定は、スタンドアロンモード動作時の動作設定となります。（→ 28ページ「ミキサーパネルの設定の保存」）

Close項目

ミキサーパネルを閉じます。

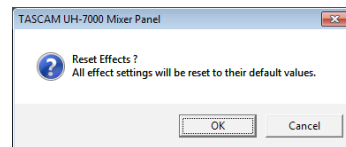
エフェクト設定の初期化

《EFFECTS》タブ画面内の全ての設定項目を初期化します。

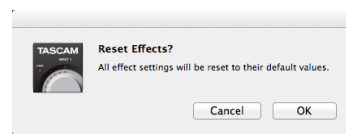
注意

初期化を行うと、以前の設定に戻すことはできません。

1. メニューバーの《File》メニュー（Windows）または《TASCAM UH-7000 Mixer Panel》（Mac）から《Effect Reset...》項目をクリックします。
以下の確認メッセージが表示されます。



[確認メッセージ Windows版]



[確認メッセージ Mac版]

2. メッセージ内の《OK》ボタンをクリックして、エフェクトの設定を初期値に戻します。
初期化される項目は、以下の通りです。

- COMPRESSOR
THRESHOLD、RATIO、ATTACK、RELEASE、GAIN
- NOISE SUPPRESSOR
THRESHOLD、SUPPRESSION、ATTACK、RELEASE
- DE-ESSER
FREQUENCY、DEPTH
- EXCITER
FREQUENCY、DEPTH
- EQ
全帯域（LOW、MID、HIGH）のGAIN、FREQとMIDのQ
- REVERB
ROOM TYPE、PRE DELAY、REVERB TIME

メモ

- 《Cancel》ボタンをクリックすると初期化せずに、ミキサーパネルに戻ります。
- 《Effect Reset...》項目で初期化されないダイナミクスエフェクト、またはセンドエフェクトのオン/オフやダイナミクスエフェクトのアサインなどの項目は、《Mixer Reset...》を行った場合に初期化されます。各エフェクトの設定の初期値については、各エフェクトの詳細をご参照ください。

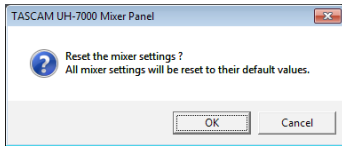
ミキサー設定の初期化

《MIXER》タブ画面内の設定項目を初期化します。

注意

初期化を行うと、以前の設定に戻すことはできません。

1. メニューバーの《File》メニュー (Windows) または《TASCAM UH-7000 Mixer Panel》 (Mac) から《Mixer Reset...》項目をクリックします。
以下の確認メッセージが表示されます。



[確認メッセージ Windows版]



[確認メッセージ Mac版]

2. メッセージ内の《OK》ボタンをクリックし、ミキサーなどの設定を初期値に戻します。
初期化される項目および初期値は、以下の通りです。

《INTERFACE》タブ画面の以下の項目

- Mixer Mode項目 : Multitrack

《MIXER》タブ画面の以下の項目

- ダイナミクスエフェクト : オフ
- ダイナミクスエフェクトのアサインボタン : オフ
- エフェクトセンド選択ボタン (全チャンネル) : POST
- センドつまみ (全チャンネル) : 0
- SOLOボタン (全チャンネル) : オフ
- MUTEボタン (全チャンネル) : オフ
- パンスライダー (全チャンネル) : 《C》センター
- チャンネルフェーダー (全チャンネル) : 0dB
- LINKボタン (全ペアチャンネル) : オフ
- センドエフェクト : オフ
- SENDつまみ : 127
- RETURNつまみ : 64
- マスターフェーダー : 0dB
- MON MIXスライダー : 中央
- LINE OUTPUTS SELECTボタン : Master L and R
- DIGITAL OUTPUTS SELECTボタン :
Computer 1 and 2 (《Multitrack》モード時の初期値)
Master L and R (《Stereo Mix》モード時の初期値)

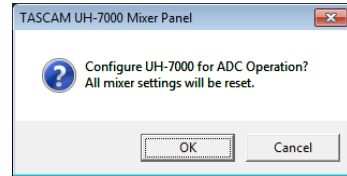
メモ

《Cancel》ボタンをクリックすると初期化せずに、ミキサーパネルに戻ります。

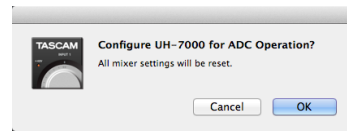
A/Dコンバーターとして使う

ミキサーパネルの各タブ画面の設定項目をA/Dコンバーターとして使用しやすい設定値に設定します。

1. メニューバーの《File》メニュー (Windows) または《TASCAM UH-7000 Mixer Panel》 (Mac) から《ADC Preset》項目をクリックします。
以下の確認メッセージが表示されます。



[確認メッセージ Windows版]



[確認メッセージ Mac版]

2. メッセージ内の《OK》ボタンをクリックすると、ミキサーパネルの各タブ画面の設定項目がA/Dコンバーターとして使用しやすい設定値に設定されます。
設定される項目および値は、以下の通りです。

《INTERFACE》タブ画面の以下の項目

- Mixer Mode項目 : Multitrack

《MIXER》タブ画面の以下の項目

- ダイナミクスエフェクトボタン : オフ
- ダイナミクスエフェクトのアサインボタン : オフ
- エフェクトセンド選択ボタン (全チャンネル) : POST
- SENDつまみ (全チャンネル) : 0
- SOLOボタン (全チャンネル) : オフ
- MUTEボタン (全チャンネル) : オフ
- パンスライダー (全チャンネル) : 《C》センター
- チャンネルフェーダー (Analog 1 / 2) : 0dB
- チャンネルフェーダー (Digital 1 / 2) : -∞dB
- チャンネルフェーダー (Computer 1-4) : -∞dB
- LINKボタン (全ペアチャンネル) : オフ
- センドエフェクト : オフ
- SENDつまみ : 127
- RETURNつまみ : 64
- マスターフェーダー : 0dB
- MON MIXスライダー : Input
- LINE OUTPUTS SELECTボタン : Master L and R
- DIGITAL OUTPUTS SELECTボタン : Analog in 1 and 2

メモ

設定後もこれらの設定値を自由に変更することができます。

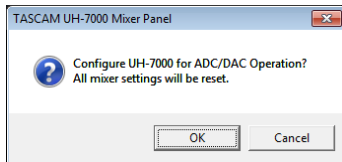
第5章 ミキサーパネルの設定

A/DコンバーターおよびD/Aコンバーターとして使う

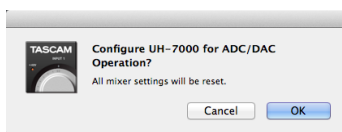
ミキサーパネルの各タブ画面の設定項目をA/DまたはD/Aコンバーターとして使用しやすい設定値に設定します

1. メニューバーの《File》メニュー (Windows) または《TASCAM UH-7000 Mixer Panel》 (Mac) から《ADC/DAC Preset》項目をクリックします。

以下の確認メッセージが表示されます。



[確認メッセージ Windows版]



[確認メッセージ Mac版]

2. メッセージ内の《OK》ボタンをクリックすると、ミキサーパネルの各タブ画面の設定項目がA/DまたはD/Aコンバーターとして使用しやすい設定値に設定されます。設定される項目および値は、以下の通りです。

《INTERFACE》タブ画面の以下の項目

- Mixer Mode項目 : Multitrack
- Sample Clock Source項目 : Automatic

《MIXER》タブ画面の以下の項目

- ダイナミクスエフェクトボタン : オフ
- ダイナミクスエフェクトのアサインボタン : オフ
- エフェクトセンド選択ボタン (全チャンネル) : POST
- SENDつまみ (全チャンネル) : 0
- SOLOボタン (全チャンネル) : オフ
- MUTEボタン (全チャンネル) : オフ
- パンスライダー (全チャンネル) : 《C》センター
- チャンネルフェーダー (全チャンネル) : 0dB
- LINKボタン (全ペアチャンネル) : オフ
- センドエフェクト : オフ
- SENDつまみ : 127
- RETURNつまみ : 64
- マスターフェーダー : 0dB
- LINE OUTPUTS SELECTボタン : Digital in 1 and 2
- DIGITAL OUTPUTS SELECTボタン : Analog in 1 and 2

メモ

設定後もこれらの設定値を自由に変更することができます。

ミキサーパネルの設定の保存

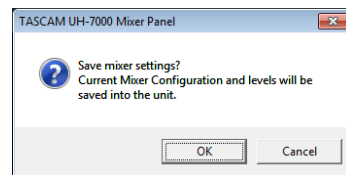
現在のミキサーパネルの設定内容を本体のメモリーに保存します。ここで保存された設定は、スタンドアロンモード動作時の動作設定となります。

注意

ミキサーパネルの設定内容は、本機のメモリーに1つしか保存できません。そのため保存動作を行うと以前の設定は消去されます。

1. メニューバーの《File》メニュー (Windows) または《TASCAM UH-7000 Mixer Panel》 (Mac) から《Save》項目をクリックします。

以下の確認メッセージが表示されます。



[確認メッセージ Windows版]



[メッセージ Mac版]

2. メッセージ内の《OK》ボタンをクリックし、現在のミキサーパネルの設定内容を本機のメモリーに保存します。

メモ

本機が保存動作を行っている間は、一瞬音が途切れる場合があります。

概要

本機は、本機とパソコンがUSB接続されていない状態で、本機の電源をオンにすると、本機はスタンドアロンモードで動作します。パソコンを使わずに、本機をA/DコンバーターあるいはD/Aコンバーターなどとして動作させることができます。

スタンドアロンモード動作時の各設定

スタンドアロンモード動作時は、本機のメモリーに保存されているミキサーパネルの設定内容を呼び出して動作します。予めお好みのミキサーパネルの設定を、プルダウンメニュー内の《Save》項目を使って本機のメモリーに保存しておくことで、スタンドアロンモードの動作設定を自由に変更することができます。(→ 28ページ「ミキサーパネルの設定の保存」)

注意

ミキサーパネルの設定内容は、本機のメモリーに1つしか保存できません。そのため保存動作を行うと以前の設定は消去されます。

メモ

スタンドアロンモード動作時の各設定は、パソコン未接続時には変更/保存はできません。

工場出荷時に本機のメモリーに保存されているミキサーパネルの設定は、以下の通りです。

《INTERFACE》タブ画面

- Sample Rate項目 : 44.1k Hz
- Mixer Mode項目 : Multitrack
- Audio Performance項目 : Normal
- Sample Clock Source項目 : Automatic
- Auto Power Save : 30min

《MIXER》タブ画面

- ダイナミクスエフェクトボタン : オフ
- ダイナミクスエフェクトのアサインボタン : オフ
- アナログ入力切り換えボタン : MIC
- エフェクトセンド選択ボタン (全チャンネル) : POST
- SENDつまみ (全チャンネル) : 0
- SOLOボタン (全チャンネル) : オフ
- MUTEボタン (全チャンネル) : オフ
- パンスライダー (Analog 1) : 《C》センター
- パンスライダー (Analog 2) : 《C》センター
- パンスライダー (Digital 1) : L15
- パンスライダー (Digital 2) : R15
- チャンネルフェーダー (Analog 1 / 2) : 0dB
- チャンネルフェーダー (Digital 1 / 2) : 0dB
- LINKボタン (全チャンネル) : オフ
- マスターフェーダー : 0dB
- SENDつまみ : 127
- RETURNつまみ : 64
- MON MIXスライダー : Input
- LINE OUTPUTS SELECTボタン : Master L and R
- DIGITAL OUTPUTS SELECTボタン : Master L and R
- DIGITAL OUTPUTS FORMATボタン : AES/EBU

第7章 アプリケーションガイド

ここでは、いくつかのオーディオアプリケーションと組み合わせて使用する場合の各設定方法を紹介いたします。

ソフトウェアDAW

ソフトウェアDAWは、そのDAWによって設定方法が異なります。ソフトウェアDAWをご使用の場合は、DAWの取扱説明書をご覧ください。

Windows XPとWindows Media Player

1. 全てのアプリケーションを終了し、《スタート》より《コントロールパネル》を開きます。
2. 《サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ》画面を開きます。

メモ

上記項目が見あたらない場合は、《サウンド、音声、およびオーディオデバイス》をクリックした後に表示されます。



3. 《オーディオ》タブをクリックし、《オーディオ》タブ画面を表示します。
4. 《音の再生》項目の《既定のデバイス》を《TASCAM UH-7000》に設定します。



メモ

本機を録音デバイスとして使う場合には、《録音》項目の《既定のデバイス》を《TASCAM UH-7000》に設定します。

5. 設定が終了したら、《OK》ボタンをクリックします。
6. Windows Media Playerを起動し、オーディオファイルを選択して再生を行ってください。

メモ

- Windows Media Playerを起動した状態で設定を行った場合は、Windows Media Player側でデバイスの切り換えが認識されません。この場合は、Windows Media Playerを再起動してください。
- 上記設定／操作を正しく行っても音が出ない場合は、USBケーブルを抜いてパソコンを再起動してください。
- この設定を行うと本機経由で音は出ますが、パソコンのスピーカーやヘッドホン端子からは音は出なくなります。
- 初期値では、ミキサーの設定でパンがセンター《C》になっているため、再生音がモノラルに聴こえます。必要に応じて内蔵ミキサーの設定を行ってください。(→ 18ページ「《MIXER》タブ画面」)
- ミキサー機能を通さずにWindows Media Playerの出力を本機のDIGITAL (AES/EBU) OUT端子から出力したい場合は、ミキサーパネルの《MIXER》タブ画面で《DIGITAL OUTPUTS SELECT》項目の設定を《Computer 1 and 2》に設定してください。

Windows 7とWindows Media Player

1. 全てのアプリケーションを終了し、スタートボタンより《コントロールパネル》を開きます。
2. 《サウンド》画面を開きます。

メモ

上記項目が見あたらない場合は、《ハードウェアとサウンド》をクリックした後に表示されます。



3. 《再生》タブ画面の《スピーカー TASCAM UH-7000》を右クリックし、表示されたポップアップメニュー内の《既定のデバイスとして設定》をクリックします。このとき、緑のチェックマーク(✓)が《スピーカー TASCAM UH-7000》に移動します。



メモ

本機を録音デバイスとして使う場合には、《録音》タブ画面の《ライン入力 TASCAM UH-7000》を《既定のデバイスとして設定》に設定します。

4. 設定が終了したら、《OK》ボタンをクリックします。
5. Windows Media Playerを起動し、オーディオファイルの再生を行ってください。

メモ

- Windows Media Playerを起動した状態で設定を行った場合は、Windows Media Player側でデバイスの切り換えが認識されません。この場合、Windows Media Playerを再起動してください。
- 上記設定／操作を正しく行っても音が出ない場合は、USBケーブルを抜いてパソコンを再起動してください。
- この設定を行うと本機経由で音は出ますが、パソコンのスピーカーやヘッドホン端子からは音は出なくなります。
- 初期値では、ミキサーの設定でパンがセンター《C》になっているため、再生音がモノラルに聴こえます。必要に応じて内蔵ミキサーの設定を行ってください。(→ 18ページ「《MIXER》タブ画面」)
- ミキサー機能を通さずにWindows Media Playerの出力を本機のDIGITAL (AES/EBU) OUT端子から出力したい場合は、ミキサーパネルの《MIXER》タブ画面で《DIGITAL OUTPUTS SELECT》項目の設定を《Computer 1 and 2》に設定してください。

Windows 8とWindows Media Player

1. 全てのアプリケーションを終了し、スタート画面上で右クリックして表示されるアプリバーの《すべてのアプリ》ボタンをクリックしアプリ画面を表示します。

メモ

Windows 8.1では、スタート画面左下にある↓アイコンをクリックしてアプリ画面を表示します。

2. 《コントロールパネル》をクリックします。
3. 《ハードウェアとサウンド》をクリックして開いた後、《サウンド》画面を開きます。
4. 《再生》タブ画面の《スピーカー TASCAM UH-7000》を右クリックし、表示されたポップアップメニュー内の《既定のデバイスとして設定》をクリックします。
このとき、緑のチェックマーク(✓)が《スピーカー TASCAM UH-7000》に移動します。



メモ

本機を録音デバイスとして使う場合には、《録音》タブ画面の《ライン入力 TASCAM UH-7000》を《既定のデバイスとして設定》に設定します。

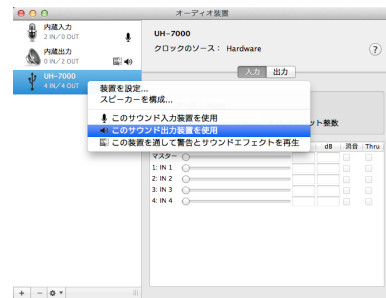
5. 設定が終了したら、《OK》をクリックします。
6. Windows Media Playerを起動し、オーディオファイルを選択して再生を行ってください。

メモ

- Windows Media Playerを起動した状態で設定を行った場合は、Windows Media Player側でデバイスの切り換えが認識されません。この場合、Windows Media Playerを再起動してください。
- 上記設定／操作を正しく行っても音が出ない場合は、USBケーブルを抜いてパソコンを再起動してください。
- この設定を行うと本機経由で音は出ますが、パソコンのスピーカーやヘッドホン端子からは音は出なくなります。
- 初期値では、ミキサーの設定でパンがセンター《C》になっているため、再生音がモノラルに聞こえます。必要に応じて内蔵ミキサーの設定を行ってください。(→ 18ページ「《MIXER》タブ画面」)
- ミキサー機能を通さずにWindows Media Playerの出力を本機のDIGITAL (AES/EBU) OUT端子から出力したい場合は、ミキサーパネルの《MIXER》タブ画面で《DIGITAL OUTPUTS SELECT》項目の設定を《Computer 1 and 2》に設定してください。

Mac OS XとiTunes

1. 《アプリケーション》フォルダー内の《ユーティリティ》フォルダー内にある《オーディオMIDI設定》をダブルクリックし、《オーディオ装置》画面を開きます。
2. 《UH-7000》をクリックして選択し、右クリックまたはcontrolキーを押しながら《UH-7000》をクリックして表示されるポップアップメニュー内の《このサウンド出力装置を使用》をクリックします。
スピーカーのマークが《UH-7000》に移動します。



メモ

本機を録音デバイスとして使う場合には、《UH-7000》を《このサウンド入力装置を使用》に設定します。

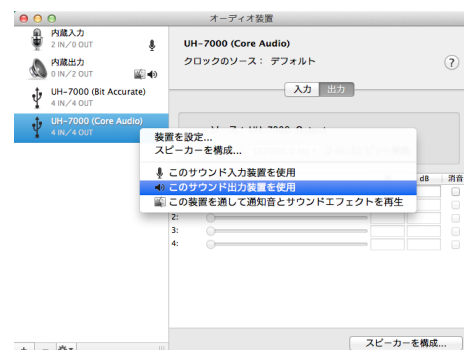
3. iTunesを起動し、オーディオファイルを選択して再生を行ってください。

メモ

ミキサー機能を通さずにiTunesの出力を本機のDIGITAL (AES/EBU) OUT端子から出力したい場合は、ミキサーパネルの《MIXER》タブ画面で《DIGITAL OUTPUTS SELECT》項目の設定を《Computer 1 and 2》に設定してください。

OS X Mavericks (10.9) でのオーディオMIDI設定について

OS X Mavericks (10.9) では《オーディオ装置》に《UH-7000 (Bit Accurate)》と《UH-7000 (Core Audio)》の2つの装置が表示されますが、《UH-7000 (Bit Accurate)》を入力装置および出力装置として使用することはできません。
《UH-7000 (Core Audio)》を使用してください。



メモ

- DAWなどで《UH-7000 (Bit Accurate)》が選択できる場合には、こちらを使用した方がより安定した録音・再生が行えます。
- 《UH-7000 (Bit Accurate)》は、Mac App storeからダウンロードしたアプリでは使用できません。その場合には、《UH-7000 (Core Audio)》をご使用ください。

第8章 トラブルシューティング

本取扱説明書の手順通り設定しても、本機が正常に使用できない場合は、まずは本章をご確認ください。
本章で解決できない場合は、タスカムカスタマーサポートまで、下記のご使用環境と、詳しい状況をお知らせいただきますようお願い致します。

ご使用環境

- パソコンメーカー：
- モデル：
- CPU：
- 搭載メモリー：
- OS：
- 使用アプリケーション：
- ウィルス対策ソフト：
- 無線LANの有無：

お問い合わせ先につきましては、巻末をご参照ください。

インストールできない。

インストールしたがパソコンに認識されない。

↓
何らかの問題が発生し、インストールに失敗する、またはインストールは完了したがパソコンに認識されない場合は、下記をご確認ください。

1) USBポートの差し替え

USBポートによっては、本機が正常に動作しないものもございますので、パソコン本体の別のUSBポート（オンボードの）に接続して、再度インストールをお試しください。

メモ

- その他のUSB機器は、接続せずにお試しください（USBキーボード・USBマウスは、接続しても構いません）。
- USBハブはご使用にならず、必ずパソコン本体の（オンボードの）USBポートに接続してください。

2) 常駐ソフトの停止

アンチウイルスソフトなどの常駐ソフトがインストールの妨げとなる場合がございますので、インストール前に終了してください。

ドライバーのアンインストール／インストール方法は、本取扱説明書の9ページ「ドライバーをインストールする」をご参照ください。

電源が入らない

↓
オートパワーセーブ機能により電源がオフ（スタンバイ状態）になっている場合は、一度POWERスイッチをオフにして8秒以上経ってから、再度POWERスイッチをオンにしてください。

オーディオを再生しても音が出ない。

↓

1) パソコン接続時

パソコン側で音声出力の設定が必要です。

本機をパソコンに接続した状態で下記をご確認ください。なお、以下の設定を行うと本機経由で音は出ますが、パソコンのスピーカーやヘッドホン端子から音は出なくなります。

● Windows 8 / 7 / XP

第7章の各OSに合わせた設定を行ってください。

Windows 8は手順1.～4.を、Windows 7 / XPは手順1.～3.を行い再生時の既定デバイスに設定してください。

● Mac OS X

1. 全てのアプリケーションを終了し、アップルメニューより《システム環境設定...》画面を開きます。
2. 《サウンド》を開きます。
3. 《出力》タブから《UH-7000 output》を選択します。

設定が完了しましたら、パソコンを再起動し、再生音をご確認ください。また、お使いのアプリケーションによっては、上記とは別にデバイス設定を行う必要がある場合がございます。特にDAWをご使用時には、上記OSの設定とは別のオーディオエンジンで動作していますので、本機のドライバーをインストール後、先にDAWのドライバー設定をご確認ください。
お使いのアプリケーションの詳しい設定方法については、各マニュアルをご参照ください。

2) スタンドアロンモード動作時

スタンドアロンモード動作時の場合、スタンドアロンモード用に適切に入出力設定がされているか確認してください。

ミキサーパネルの設定内容の確認・保存は、パソコンに接続中にミキサーパネルから行ってください。（→ 26ページ「ミキサーパネルのプルダウンメニュー」）

音切れやノイズが発生する。

↓

パソコンの負荷が原因で音切れやノイズが発生します。

パソコンの負荷を軽減させる方法を下記にご紹介致します。

- 1) 無線LANやアンチウイルスソフトなどの常駐ソフトがバックグラウンドで動作している場合は、定期的な負荷がかかり、音切れやノイズの原因となります。
無線LANの通信を停止、アンチウイルスソフトなどの常駐ソフトを停止してご使用ください。

- 2) お使いのオーディオアプリケーション、あるいは本機のミキサーパネルにてバッファサイズ（レイテンシー）の設定を大きくすることをお試しください。

メモ

オーディオアプリケーション側でパソコンへの負荷を減らす方法を、オーディオアプリケーションのメーカー様にお問い合わせください。

- 3) パソコンをオーディオ処理に適した設定に変更してください。

● Windows 8

1. Windows 8の通常のスタート画面(メトロUI画面)で右クリックし、《すべてのアプリ》をクリックします。
2. 《コンピュータ》を右クリックし、《プロパティ》を選択します。
3. 《システムの詳細設定》をクリックします。
4. 《システムのプロパティ》画面の《詳細設定》タブで、《パフォーマンス》枠の《設定...》をクリックします。
5. 《パフォーマンスオプション》画面の《視覚効果》タブで、《パフォーマンスを優先する》を選択します。

● Windows 7

- a) 《Aero》(エアロ)を《OFF》に設定
 1. デスクトップを右クリックし、《個人設定》を選択します。
 2. テーマを《ベーシックテーマとハイコントラストテーマ》の中から選択します。
- b) パフォーマンス設定
 1. 《コンピュータ》を右クリックし、《プロパティ》を選択します。
 2. 《システムの詳細設定》をクリックします。
 3. 《システムのプロパティ》画面の《詳細設定》タブで、《パフォーマンス》枠の《設定...》をクリックします。
 4. 《パフォーマンスオプション》画面の《視覚効果》タブで、《パフォーマンスを優先する》を選択します。

● Windows XP

1. 《マイ コンピュータ》を右クリックし、《プロパティ》を選択します。
2. 《詳細設定》タブをクリックします。
3. 《パフォーマンス》枠の《設定》をクリックします。
4. 《パフォーマンスオプション》画面で、《パフォーマンスを優先する》を選択します。

● Mac OS X

1. アップルメニューより《システム環境設定...》画面を開き、《省エネルギー》を選択します。
2. 《コンピュータのスリープ》を《しない》に設定します。
3. 《ディスプレイのスリープ》を《しない》に設定します。

メモ

Mac OS Xのバージョン、またはMacintoshコンピューターによっては、この設定がない場合があります。

音量がおかしい。

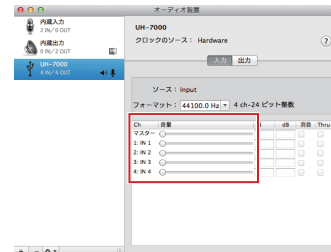
↓
ミキサー機能により、音量に影響している可能性があります。ミキサーパネルの《MIXER》タブ画面より、各種設定をご確認ください。

音質がおかしい。

↓
内蔵エフェクターがかかり、音質が変化している可能性があります。ミキサーパネルの《EFFECTS》タブ画面より、各種設定をご確認ください。

オーディオMID設定の音量調節が動かない (Mac)

↓
本機の入力および出力レベルの調節は、本機の各つまみや《MIXER》タブ画面内で行います。そのため、Macの《オーディオMIDI設定》→《オーディオ装置》画面の音量調節では操作は無効になっており、使用できません。
本機のとつまみや《MIXER》タブ画面の各フェーダーで調節してください。



第9章 仕様

定格

サンプリング周波数

44.1k/48k/88.2k/96k/176.4k/192k Hz

量子化ビット数

24ビット

アナログオーディオ入出力定格

アナログオーディオ入力定格

ライン入力 (ANALOG (BALANCED) LINE IN 1 / 2)

コネクタ : 6.3mm (1/4") TRS標準ジャック
(Tip : HOT, Ring : COLD, Sleeve : GND)

入力インピーダンス : 15k Ω

最大入力レベル : +26.5dBu

最小入力レベル : -38dBu

マイク入力 (ANALOG (BALANCED) MIC IN 1 / 2)

コネクタ : XLR-3-31相当
(1 : GND, 2 : HOT, 3 : COLD)

入力インピーダンス : 2.2k Ω

最大入力レベル : +2dBu

最小入力レベル : -60dBu

アナログオーディオ出力定格

ライン出力 (ANALOG (BALANCED) OUTPUT L / R)

コネクタ : XLR-3-32相当
(1 : GND, 2 : HOT, 3 : COLD)

出力インピーダンス : 100 Ω

最大出力レベル : +24dBu

ヘッドホン出力 (PHONES)

コネクタ : 6.3mm (1/4") ステレオ標準ジャック
最大出力 : 45mW+45mW以上
(THD+N 1%以下, 32 Ω 負荷時)

デジタルオーディオ入出力定格

デジタルオーディオ入力定格

DIGITAL (AES/EBU) IN

コネクタ : XLR-3-31相当
(1 : GND, 2 : HOT, 3 : COLD)

フォーマット : IEC60958-3 (S/PDIF) /
IEC60958プロユース (AES/EBU)

サンプリング周波数 :
×1 : 44.1k / 48k Hz
×2 : 88.2k / 96k Hz
×4 : 176.4k / 192k Hz

デジタルオーディオ出力定格

DIGITAL (AES/EBU) OUT

コネクタ : XLR-3-32相当
(1 : GND, 2 : HOT, 3 : COLD)

フォーマット : IEC60958-3 (S/PDIF) /
IEC60958プロユース (AES/EBU)

サンプリング周波数 :
×1 : 44.1k / 48k Hz
×2 : 88.2k / 96k Hz
×4 : 176.4k / 192k Hz

コントロール入出力定格

USB

コネクタ : USB Bタイプ 4ピン
転送速度 : USB 2.0 HIGH SPEED (480Mbps) /
FULL SPEED (12Mbps)

オーディオ性能

オーディオ性能

EIN : -128dBu (un-weighted) , @60dB, 40 Ω
ADCチップセットダイナミックレンジ : 123dB (A-Weight)
DACチップセットダイナミックレンジ : 123dB (A-Weight)

周波数特性

MIC Preamp : 20Hz-80kHz, +0.005dB/-0.16dB
(FS=ALL)

S/N比

117dB (MIC→AD)

歪率

0.0009% (MIC→AD)

動作条件

最新の対応OS状況については、TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) ご確認ください。

Windows

対応OS

Windows 8 (8.1を含む) 32ビット
Windows 8 (8.1を含む) 64ビット
Windows 7 32ビット SP1以上
Windows 7 64ビット SP1以上
Windows XP 32ビット SP3以上
(Windows VistaおよびWindows XP 64ビットはサポート外)

対応パソコン

USB2.0を装備したWindows 対応パソコン

CPU / クロック

デュアルコアプロセッサ 2GHz以上 (x86)

メモリー

2GB以上

注意

本機の動作確認は、上記のシステム条件を満たす標準的なパソコンを使って行われていますが、上記条件を満たすパソコン全ての場合の動作を保証するものではありません。同一条件下であっても、パソコン固有の設計仕様や使用環境の違いにより処理能力が異なります。

Mac OS X

対応OS

OS X Mavericks (10.9.1以降)
OS X Mountain Lion (10.8.4以降)
OS X Lion (10.7.5以降)
Mac OS X Snow Leopard (10.6.8以降)

対応パソコン

USB2.0を装備したApple Macintoshシリーズ

CPU / クロック

デュアルコアプロセッサ 2GHz以上

メモリー

2GB以上

対応オーディオドライバー

ASIO2.0、WDM (MME)
Core Audio

一般

電源

AC100V、50/60Hz

消費電力

15W

外形寸法

214 x 81.2 x 233mm (幅 x 高さ x 奥行き)

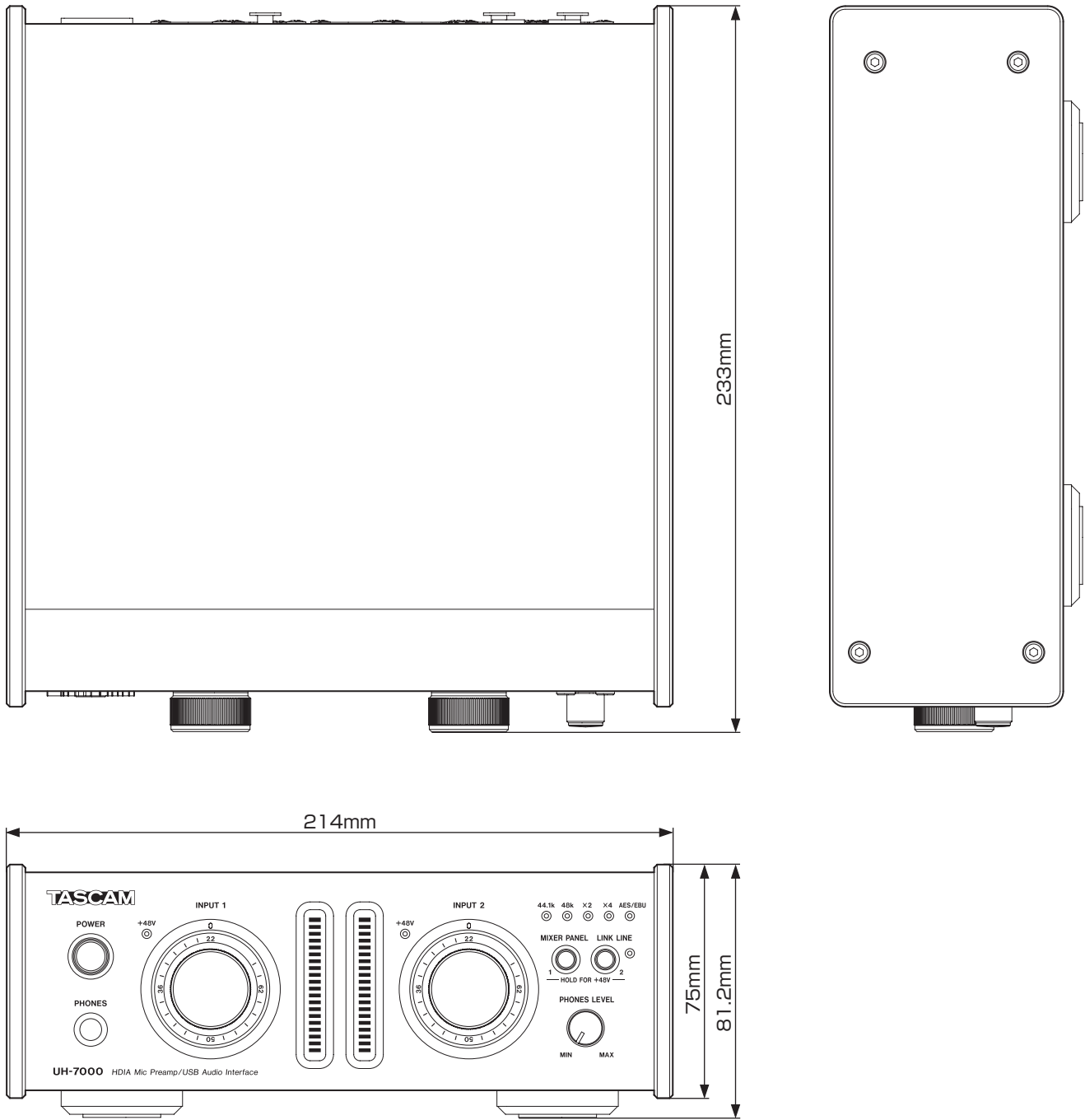
質量

2.2Kg

動作温度

5 ~ +35°C

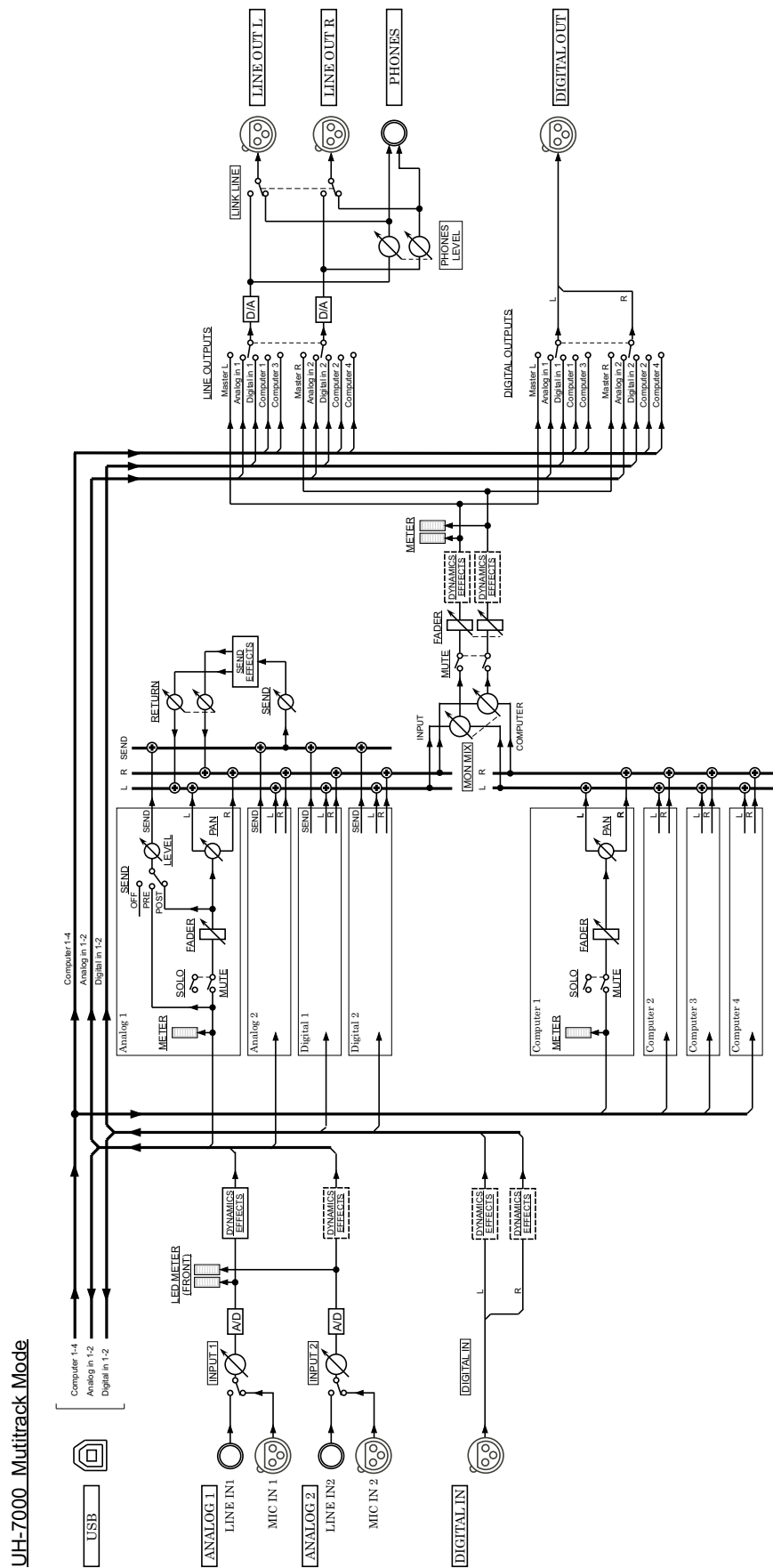
寸法図



- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

オーディオフローダイアグラム

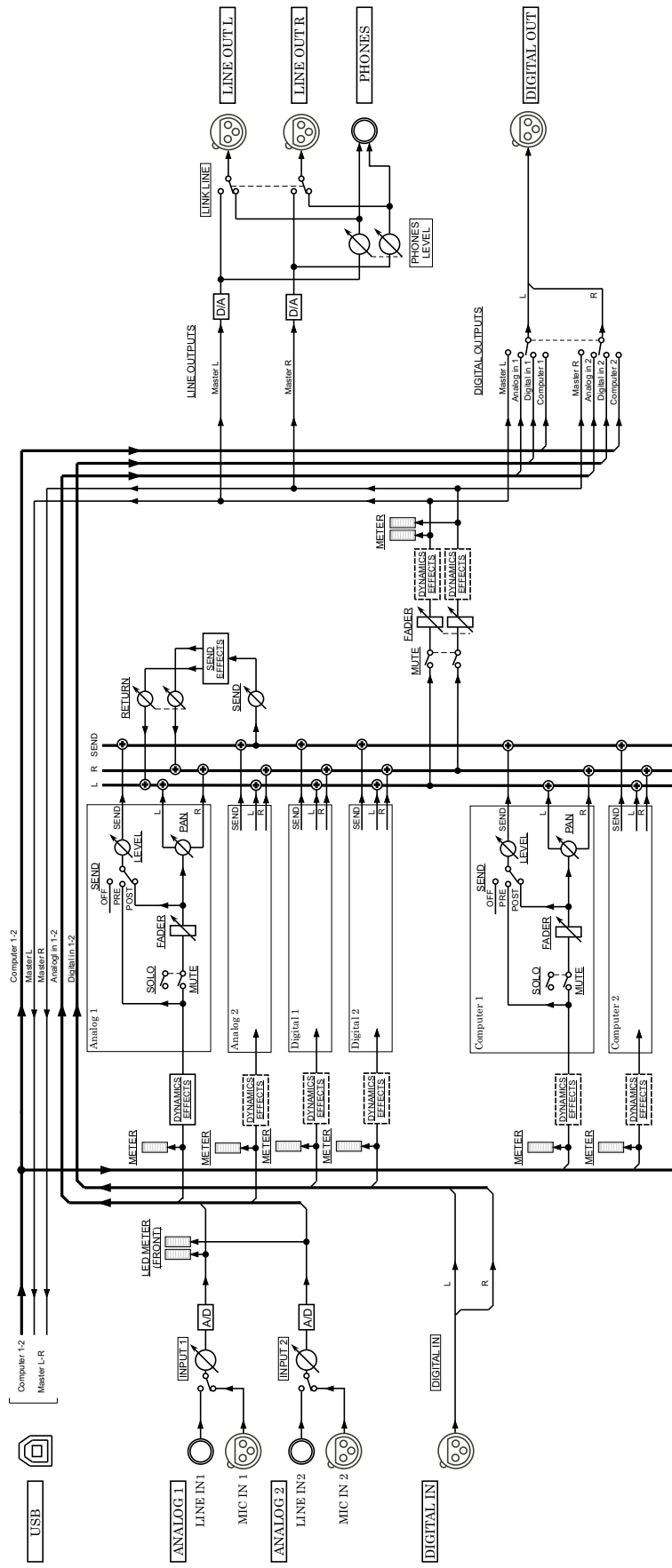
マルチトラックモード



UH-7000 Multitrack Mode

ステレオミックスモード

UH-7000 Stereo Mix Mode



この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00～12:00 / 13:00～17:00です。

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47



一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-809

PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858



一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

新電電各社をご利用の場合は、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。

このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

<http://tascam.jp/>